

第 19 回評価委員会

村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場

生活環境影響調査報告書

概 要 版

■ 生活環境影響調査

表 1-1 H26 年度 環境モニタリングの実績

1. 生活環境影響調査の概要

村田町竹の内地区産業廃棄物最終処分場（以下、「処分場」という。）に係る支障除去対策工事後において、処分場内の状況及び処分場内廃棄物による地域住民の生活環境に対する影響を把握し、地域住民の安全安心を確保するために、生活環境影響調査（以下、「環境モニタリング」という。）を実施したものである。

本報告では、平成 26 年 4 月から平成 26 年 9 月まで実施した環境モニタリングの結果を示す。

1.1 調査実施期間

平成 26 年 4 月から平成 26 年 9 月まで

1.2 調査項目

調査実施期間における調査実績は表 1-1 に示すとおりである。工事後のモニタリング計画では、表 1-2 に示すとおりである。

調査名	調査地点	調査頻度等	H26年度調査												
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
大気環境調査	2 地点 (処分場内, 村田町役場)	年 4 回			●		●			◆		◆			
硫化水素連続調査	2 地点 (処分場内敷地境界 1, 村田第 2 中学校)	24 時間連続	●	●	●	●	●	●	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
放流水水質調査	1 地点 (放流水採取地点)	年 4 回			●			●		◆		◆			
		ダイオキシン類は年 2 回			●					◆					
河川水水質調査	2 地点 (荒川上流, 荒川下流)	年 4 回			●			●		◆		◆			
浸透水及び地下水水質調査	浸透水 9 地点 (No.3, No.5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15) 地下水 7 地点 (Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, H16-15, H16-1b, H17-19) ※Loc. 1, H16-1b, H16-15はダイオキシン類を除く	年 4 回			●			●		◆		◆			
		年 1 回(浸透水のみ)						●							
		ダイオキシン類は年 2 回			●						◆				
発生ガス等調査	発生ガス 15 地点 (No. 3, No. 3a, No. 3b, No. 5, No. 5a, No. 5b, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, 7-2, 7-4) 浸透水 11 地点 (No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, 7-2, 7-4)	月 1 回	●	●	●	●	●	●	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
下流地下水状況調査	5 地点 (Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, H16-1b, H16-15)	月 1 回	●	●	●	●	●	●	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
放流水状況調査	1 地点 (放流水採取地点)	月 1 回	●	●	●	●	●	●	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
地中温度調査	廃棄物埋立区域内 9 地点 (No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15)	年 4 回			●			●		◆			◆		
地下水位調査	廃棄物埋立区域外 5 地点 (Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H17-19)	通年(一時間毎)	●	●	●	●	●	●	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
多機能性覆土状況調査	多機能性覆土施工箇所 13 地点 (A-1, A-2, A-3, A-4, A-5, A-6, B-1, B-2, B-3, B-4, B-5, B-6, B-7) 多機能性覆土隣接地等 13 地点	年 1 回										◆			
地表ガス調査	5 地点(平成22年度表層ガス調査において、比較的高いガス濃度の硫化水素が検出された地点)	年 1 回										◆			
バイオモニタリング	2 地点 (荒川上流, 荒川下流)	年 4 回			●			●		◆			◆		

● : 調査済み
◆ : 調査予定

表 1-2 工事後のモニタリング計画

調査目的	調査名	調査項目		調査地点数	調査箇所	調査頻度等	
処分場による生活環境保全上の支障の有無の把握	大気環境調査	大気環境基準項目 指針値設定項目	塩化ビニルモノマー, 1,3-ブタジエン, ジクロロメタン, アクリロニトリル, クロロホルム, 1,2-ジクロロエタン, ベンゼン, トリクロロエチレン, テトラクロロエチレン, 水銀及びその化合物	2 地点	処分場内 村田町役場	年 4 回	
		その他項目	硫化水素, メタン, アンモニア				
	硫化水素連続調査	硫化水素, 風向, 風速		2 地点	処分場内敷地境界 村田第二中学校	24 時間連続	
	放流水水質調査	排水基準項目	総水銀 (水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物), 鉛及びその化合物, 有機燐化合物, 六価クロム化合物, 砒素及びその化合物, 1,2-ジクロロエタン, ベンゼン, 1,4-ジメチルベンゼン, ほう素及びその化合物, ふっ素及びその化合物, アンモニア等(アンモニア, アンモニウム化合物, 亜硝酸化合物及び硝酸化合物), pH, 生物化学的酸素要求量, 浮遊物質質量, ノルマルキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量), ノルマルキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量), フェノール含有量, 銅含有量, 亜鉛含有量, 溶解性鉄含有量, 溶解性マンガ含有量, クロム含有量, 大腸菌群数	1 地点	放流水採取地点	年 4 回	
			ダクタイル類				
			その他項目				溶存酸素量, 無機体炭素, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 水温, 透視度, 流量, 電気伝導率
河川水水質調査	環境基準健康項目	鉛, 六価クロム, 砒素, 総水銀, 1,2-ジクロロエタン, ベンゼン, 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素, ふっ素, ほう素, 1,4-ジメチルベンゼン	2 地点	荒川上流側 荒川下流側	年 4 回		
	環境基準生活環境項目	pH, 生物化学的酸素要求量, 浮遊物質質量, 溶存酸素量, 大腸菌群数					
	その他項目	アンモニア(アンモニア, アンモニウム化合物), 無機体炭素, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 水温, 透視度, 流量, 電気伝導率					
バイオモニタリング	AOD 試験 ^{*1} による半数致死濃度 (*1:水族環境診断法: Aquatic Organisms environment Diagnostics)		2 地点	荒川上流側 荒川下流側	年 4 回		
処分場内廃棄物により汚染された浸透水等の地下水の拡散又はそのおそれの把握	浸透水及び地下水水質調査	地下水等検査項目	総水銀, 鉛, 六価クロム, 砒素, 1,2-ジクロロエタン, ベンゼン, 1,4-ジメチルベンゼン, 塩化ビニルモノマー アルキル水銀, カドミウム, 全シアン, ホリ塩化ビフェニル, トリクロロエチレン, テトラクロロエチレン, ジクロロメタン, 四塩化炭素, 1,1-ジクロロエチレン, 1,2-ジクロロエチレン, 1,1,1-トリクロロエタン, 1,1,2-トリクロロエタン, 1,3-ジクロロプロパン, チラム, シマジン, チアベンカルブ, セレン	21 地点	浸透水 11 地点 No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3a, H26-3b 地下水 10 地点 Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, H16-1b, H16-15, H17-19, H26-1a, H26-1b, H26-2	年 4 回	
		その他項目	BOD, pH, SS, ほう素, ふっ素, アンモニア(アンモニア, アンモニウム化合物), 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 重炭酸イオン, 硫化物イオン, 水温, 電気伝導率, 酸化還元電位			年 1 回 (浸透水のみ)	
		ダクタイル類 (H16-1b を除く)	年 4 回				
			年 2 回				
処分場の状況の把握	発生ガス等調査	発生ガス	発生ガス量, メタン, 二酸化炭素, 硫化水素, 酸素, 孔内温度 (管頭下 1m), 気象 (気温, 気圧)	17 地点	No. 3, No. 3a, No. 3b, No. 5, No. 5a, No. 5b, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3a, H26-3b, 7-2, 7-4	月 1 回	
		浸透水	電気伝導率, 酸化還元電位, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 透視度, 水温, 水位, pH	13 地点			No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3a, H26-3b, 7-2, 7-4
	下流地下水状況調査	電気伝導率, 酸化還元電位, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 透視度, 水温, 水位, pH		8 地点	Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, H16-1b, H16-15, H26-1a, H26-1b, H26-2		
	放流水状況調査	電気伝導率, 酸化還元電位, 塩化物イオン, 硫酸イオン, 透視度, 水温, pH		1 地点	放流水採取地点		
	地中温度調査	鉛直方向 1m 毎の温度, 帯水域の温度		22 地点	廃棄物埋立区域内 11 地点 No. 3, No. 5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, H26-3a, H26-3b		年 4 回
	地下水位調査	地下水位, 降雨量			廃棄物埋立区域外 11 地点 Loc. 1, Loc. 1a, Loc. 1b, Loc. 3, Loc. 4, H16-1b, H16-15, H17-19, H26-1a, H26-1b, H26-2		24 時間連続
	多機能性覆土状況調査	硫化水素			26 地点		多機能性覆土施工箇所 13 地点 A-1, A-2, A-3, A-4, A-5, A-6, B-1, B-2, B-3, B-4, B-5, B-6, B-7 多機能性覆土隣接地等 13 地点
地表ガス調査			5 地点	平成 22 年度表層ガス調査において、比較的高いガス濃度の硫化水素が検出された地点の周辺			

2. 環境モニタリングの結果及び評価

本調査期間における環境モニタリング結果の詳細を以下に示す。

2.1 生活環境保全上の支障の有無の把握に関する環境モニタリング

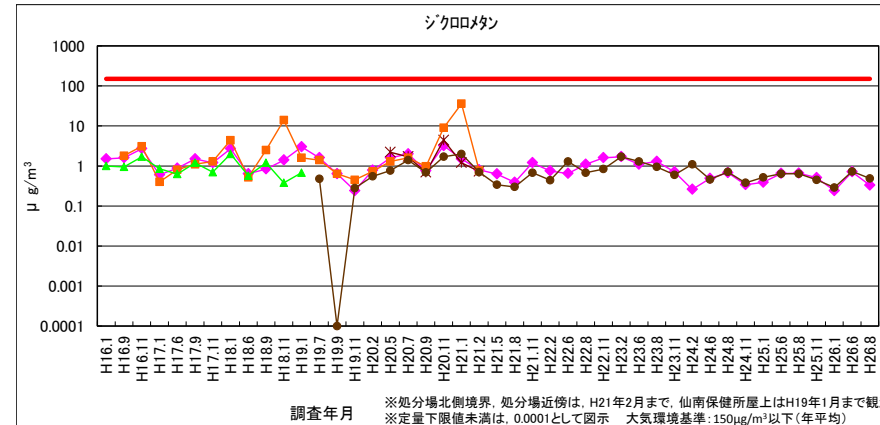
2.1.1 大気環境調査

処分場の発生ガスによる生活環境保全上の支障の有無を把握するため、6月と8月の2回に処分場内と対照地点（処分場から4km以上離れた村田町役場）の2地点で大気環境調査を実施した。調査項目は、平成26年度より46項目から13項目に絞り実施している。

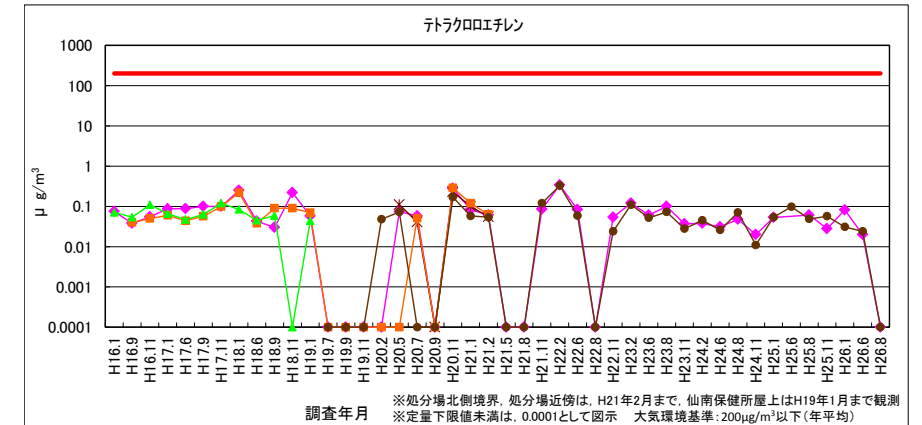
測定した13物質のうち、環境基準が定められている4物質（ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン）や、指針値が定められている6物質（塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物）については、基準値や指針値及び対照地点と比較し、その他の3物質については、対照地点と比較した。その結果は、次のとおりであった。

- 処分場内の調査地点における環境基準が定められている4物質の濃度は、いずれも環境基準を満たしており、いずれも対照地点と同程度の値であった。
- 処分場内の調査地点における指針値が定められている6物質の濃度は、いずれも指針値を満たしており、また、対照地点と同程度の値であった。
- 環境基準又は指針値が定められている10物質について、県内の他地点(8地点)における平成23年度の測定結果と比較すると、ほぼ同程度の濃度レベルであった。
- 処分場内の調査地点における硫化水素濃度は、定量下限値※(0.0002ppm)をわずかに超えて検出されたが、悪臭防止法に定める硫化水素濃度の規制基準として示される濃度範囲のうち最も厳しい濃度である0.02ppmを下回る値であった。
- 処分場の発生ガスが大気環境に及ぼす影響は、ほとんどないものと判断される。

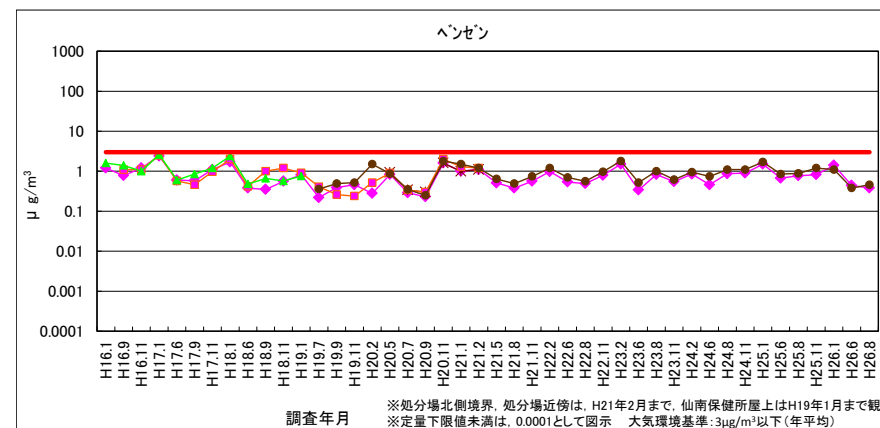
※ 炎光光度検出器（FPD）付ガスクロマトグラフによる測定における定量下限値



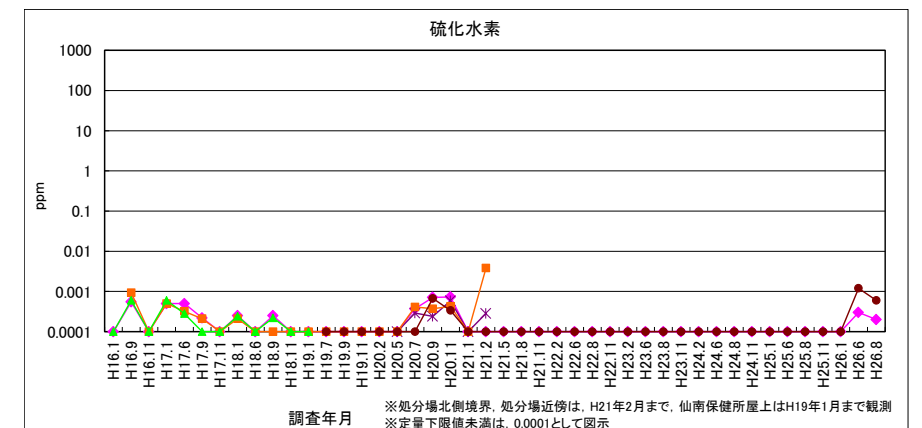
ジクロロメタン



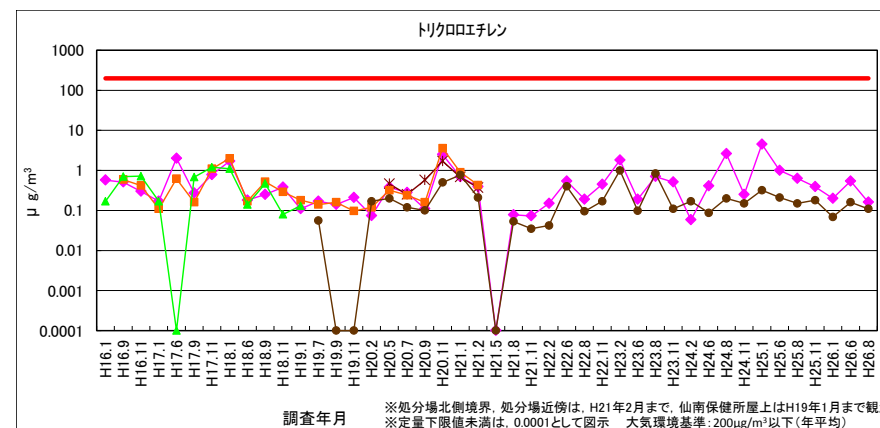
テトラクロロエチレン



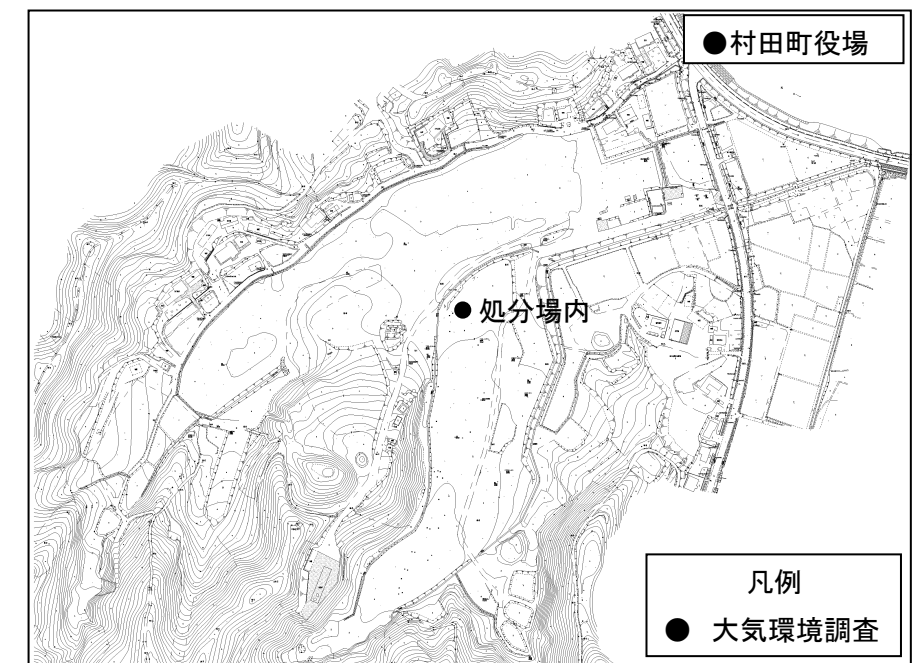
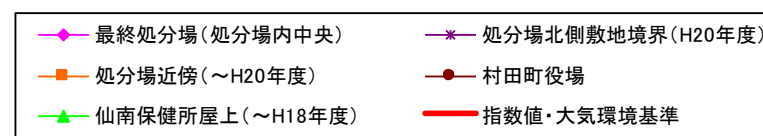
ベンゼン



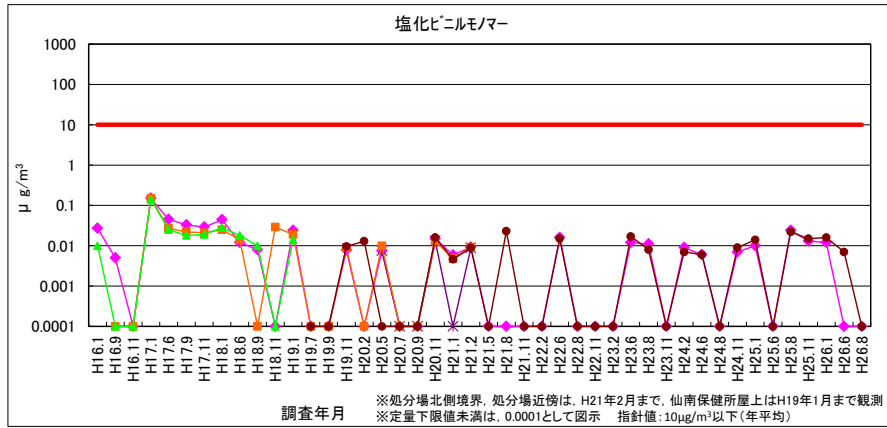
硫化水素



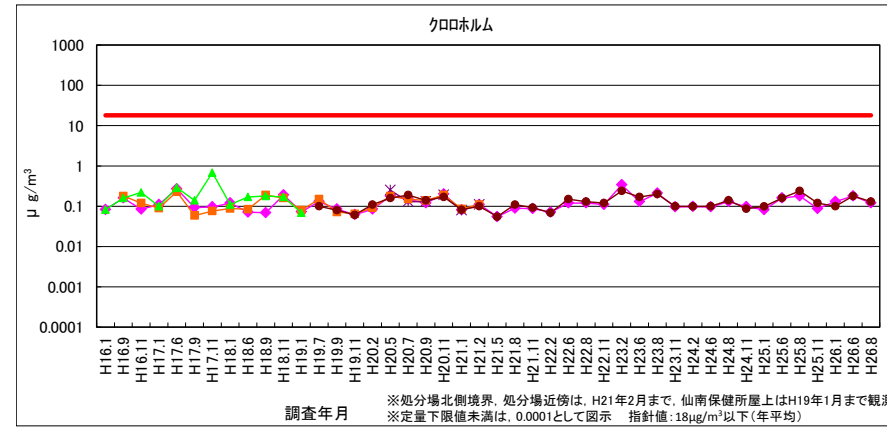
トリクロロエチレン



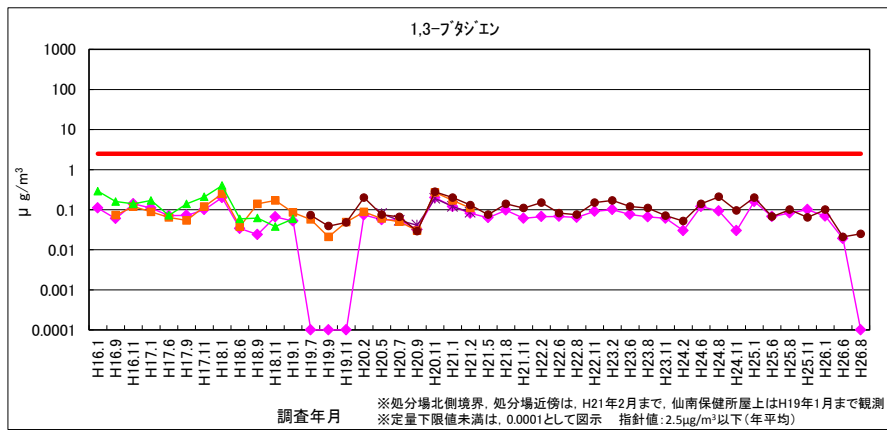
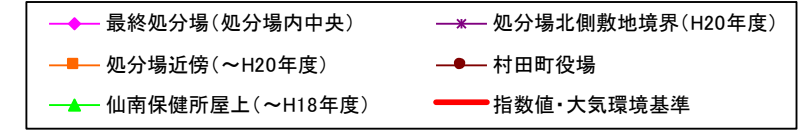
大気環境調査地点図



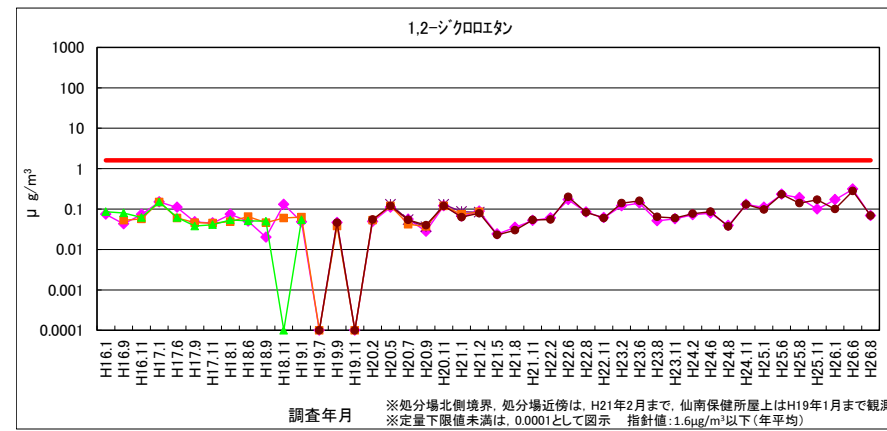
塩化ビニルモノマー



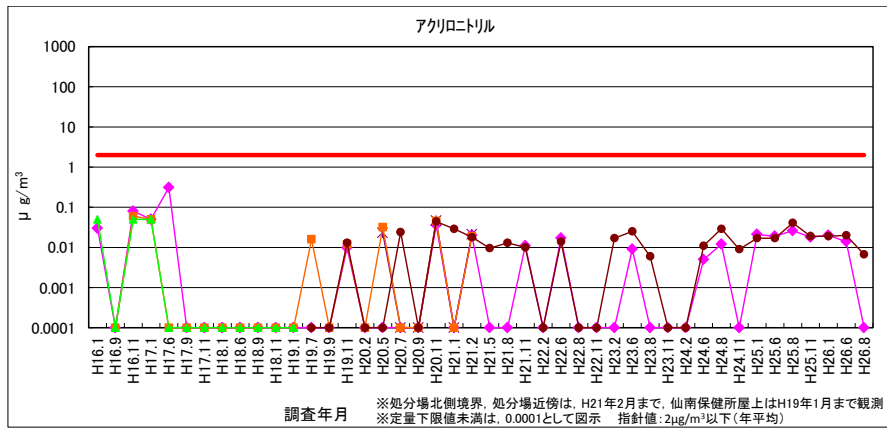
クロロホルム



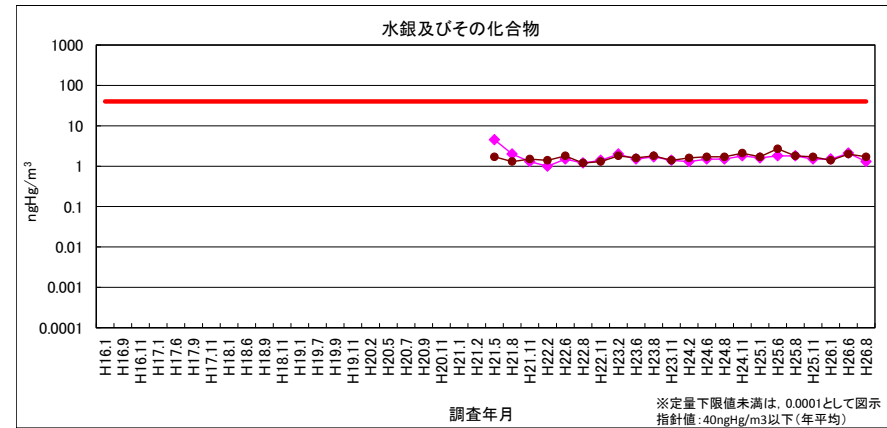
1,3-ブタジエン



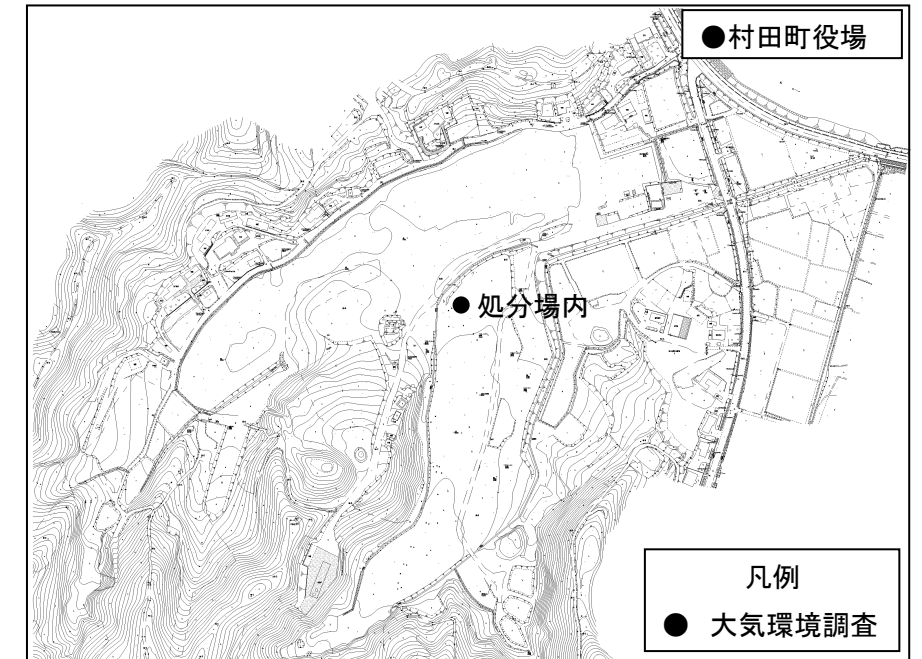
1,2-ジクロロエタン



アクリロニトリル



水銀及びその化合物



大気環境調査地点図

2.1.2 硫化水素連続調査

硫化水素による生活環境保全上の支障の有無を把握するため、処分場の敷地境界1地点と村田第二中学校1地点の合計2地点において、調査期間中30秒毎に24時間連続で硫化水素を測定した。

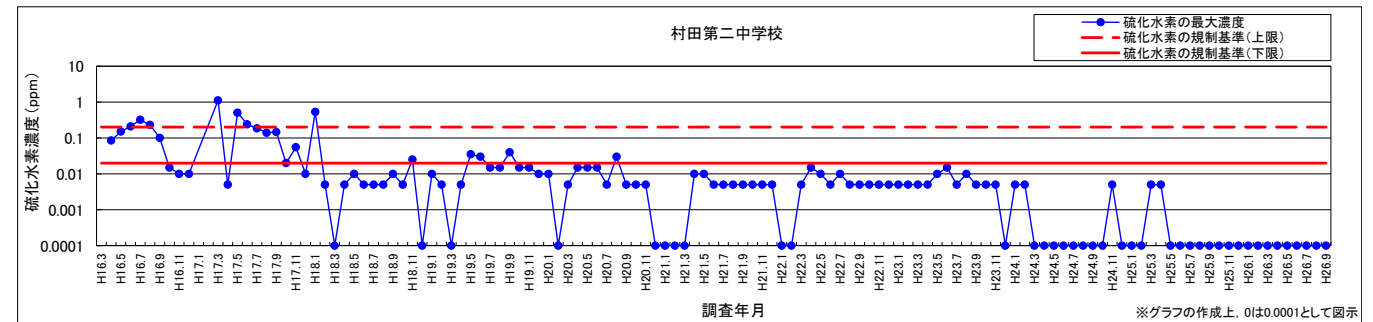
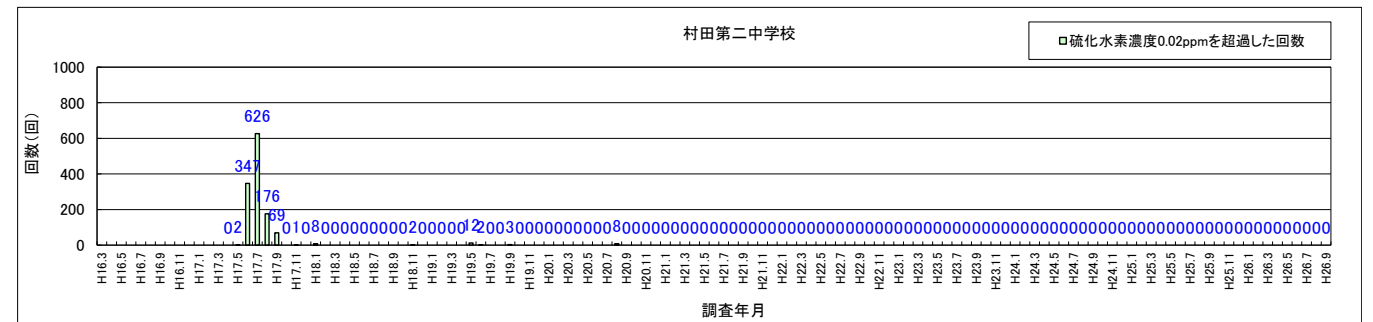
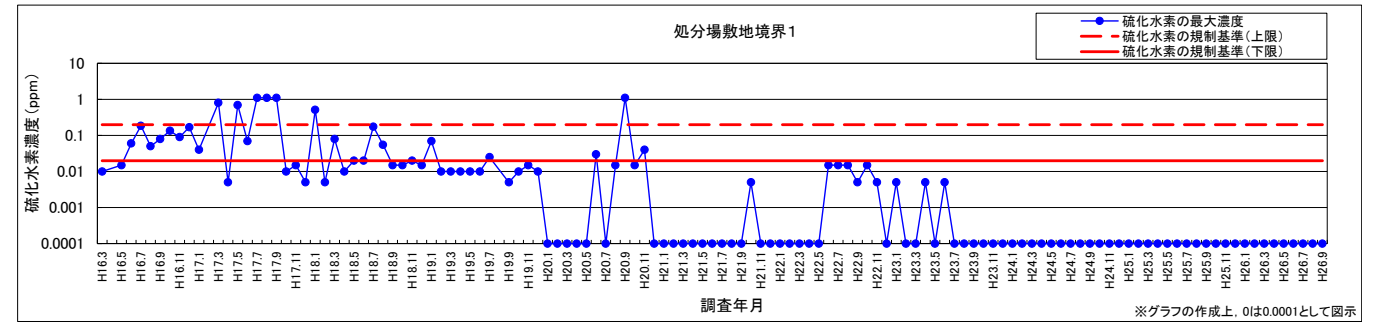
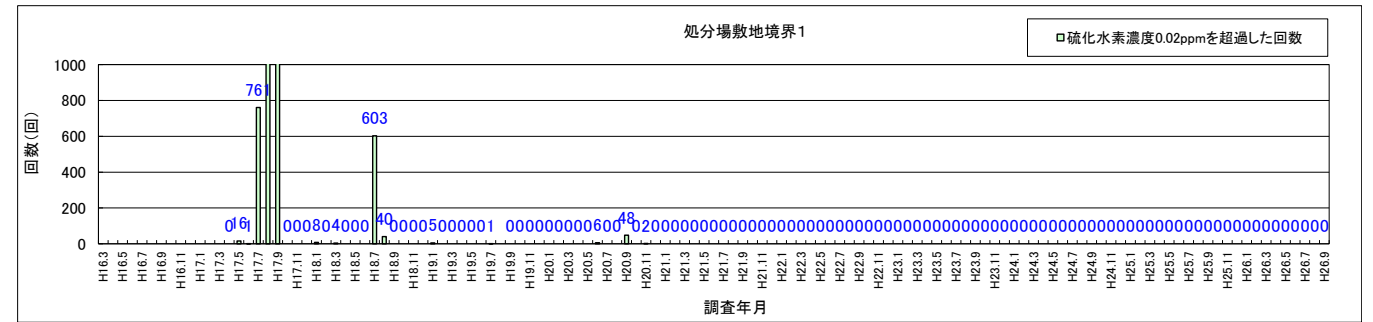
村田町竹の内地区は、悪臭防止法に基づく規制は適用されていないが、この法令を準用し、硫化水素の規制基準として示される濃度範囲（臭気強度2.5（0.02ppm）～3.5（0.2ppm））のうち最も低い（厳しい）濃度である0.02ppmを基準濃度として処分場等の濃度と比較した。その結果は以下のとおりであった。

- 全地点のすべての月で、硫化水素の値は定量下限値*（0.0002ppm）を下回った。
- 平成21年4月以降において基準濃度とした0.02ppmを超えるような濃度は測定されておらず、目標値を満たす状況が継続している。

※ 高感度毒性ガスモニターによる測定（検知原理：検知テープ光電光度法）における定量下限値



硫化水素連続調査地点図



硫化水素連続調査結果図

2.1.3 放流水及び河川水水質調査

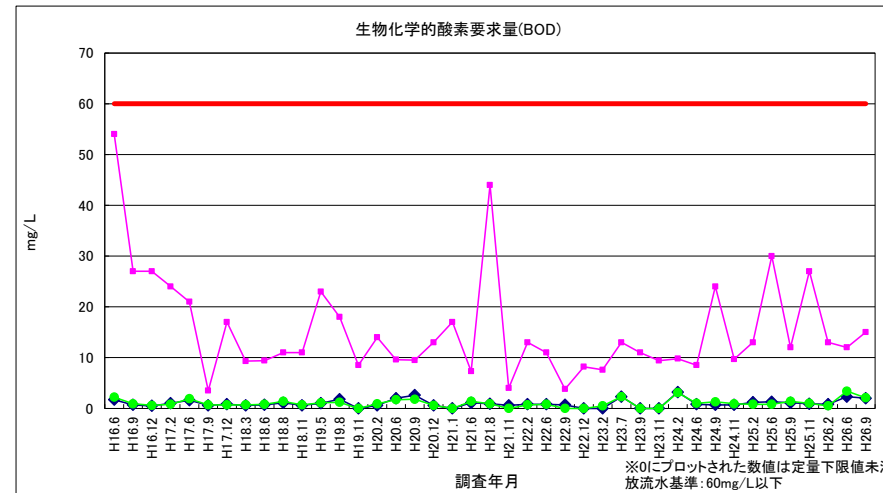
処分場からの放流水による生活環境保全上の支障の有無を把握するため、放流水1地点と河川水2地点（放流水と河川水が合流する地点よりも上流側の地点と下流側の地点）で6月、9月に水質調査を実施した。なお、昨年度まで年一回の測定を行っていた17項目については、基準値を超えない状態が続いていたため、当期以降の調査項目から除いている。

- 処分場からの放流水の水質は、管理型最終処分場の放流水基準に大腸菌群数を除くと適合していた。
- 大腸菌群数については、6月で3300(個/cm³)、9月で6600(個/cm³)を示し、管理型最終処分場の放流水基準である3000(個/cm³)を超過した。
- 大腸菌群数の超過は過去にもあり、周辺地域からの影響や降雨の状況によっても変化するものと思われ、今後の推移を注視する必要がある。
- 平成23年度から放流水の測定項目に追加した溶存酸素量は、6月に5.3mg/L(飽和度66%※¹)、9月に7.4mg/L(飽和度90%※²)であった。
- 1,4-ジオキサンは、放流水の基準値(0.5mg/L)より低い値の0.025~0.031mg/Lの範囲で検出されている。河川水では定量下限値未満であるが、水と混和して動くため、今後も注視する必要がある。
- 河川水の水質は、荒川上流と荒川下流で同程度の値を示し、放流水が荒川の水質に及ぼす影響はみられていない。

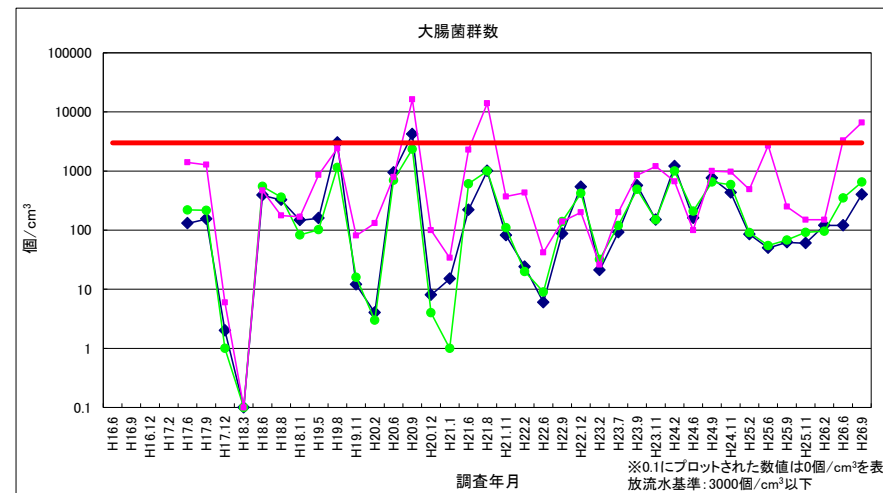
※1 試料水採取時の水温26℃の飽和溶存酸素量※³7.99mg/Lに対する溶存酸素量の割合
 ※2 試料水採取時の水温24℃の飽和溶存酸素量※³8.25mg/Lに対する溶存酸素量の割合
 ※3 蒸留水一気圧下における飽和溶存酸素



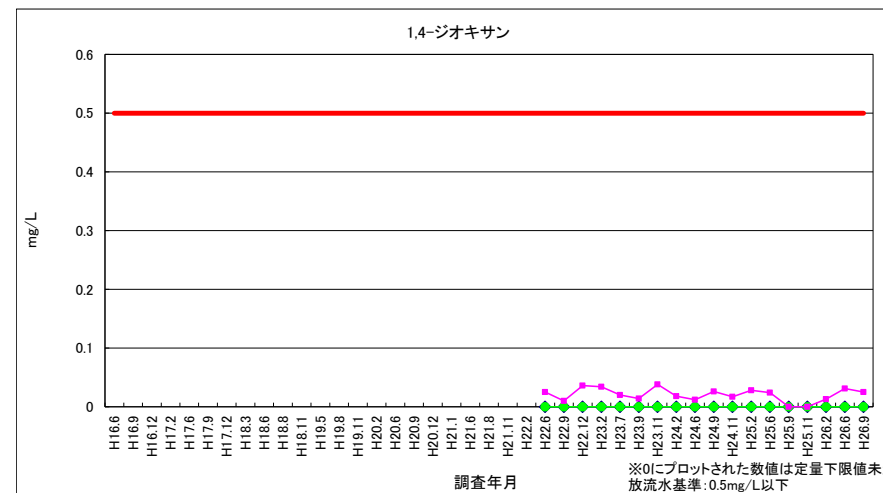
放流水及び河川水の水質調査地点図



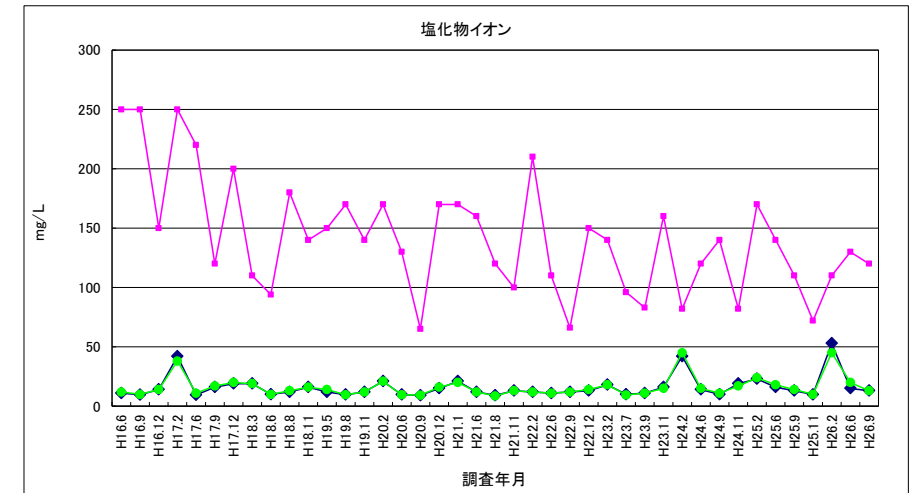
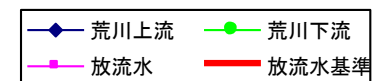
生物化学的酸素要求量 (BOD)



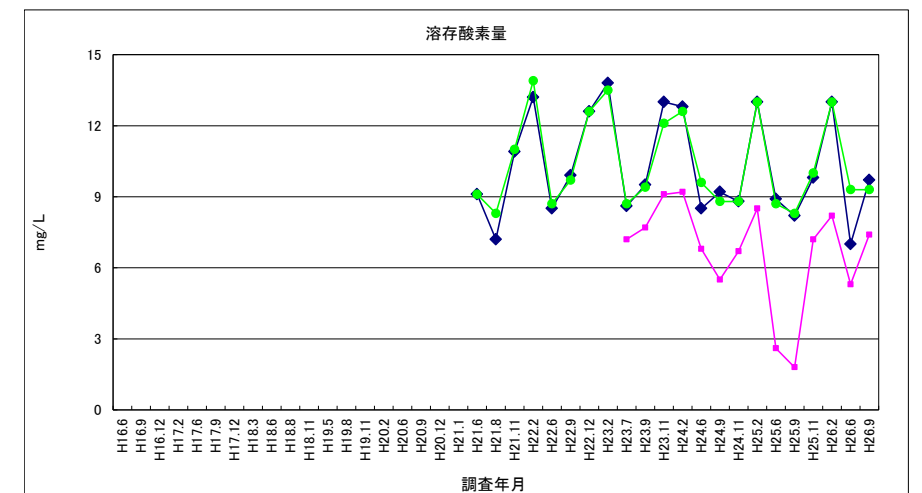
大腸菌群数



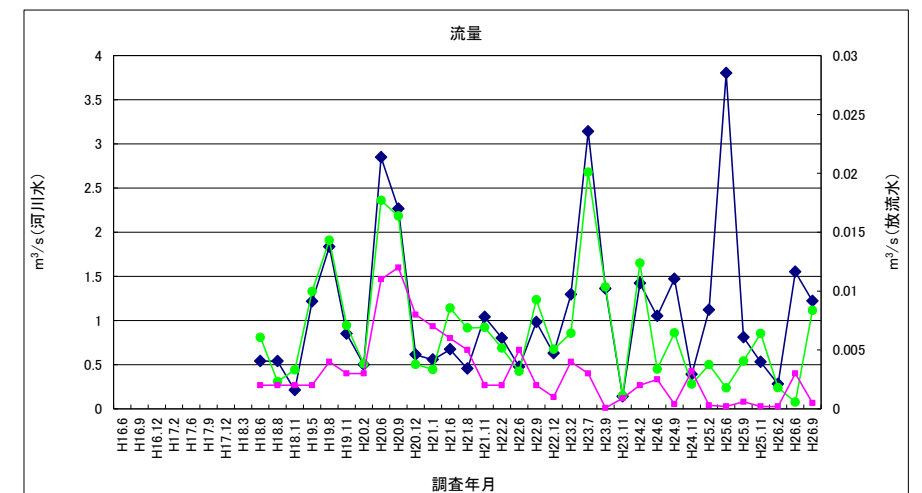
1,4-ジオキサン



塩化物イオン



溶存酸素量



流量

2.2 処分場内廃棄物により汚染された浸透水の地下水への拡散又はそのおそれの把握に関する環境モニタリング

2.2.1 浸透水及び地下水水質調査

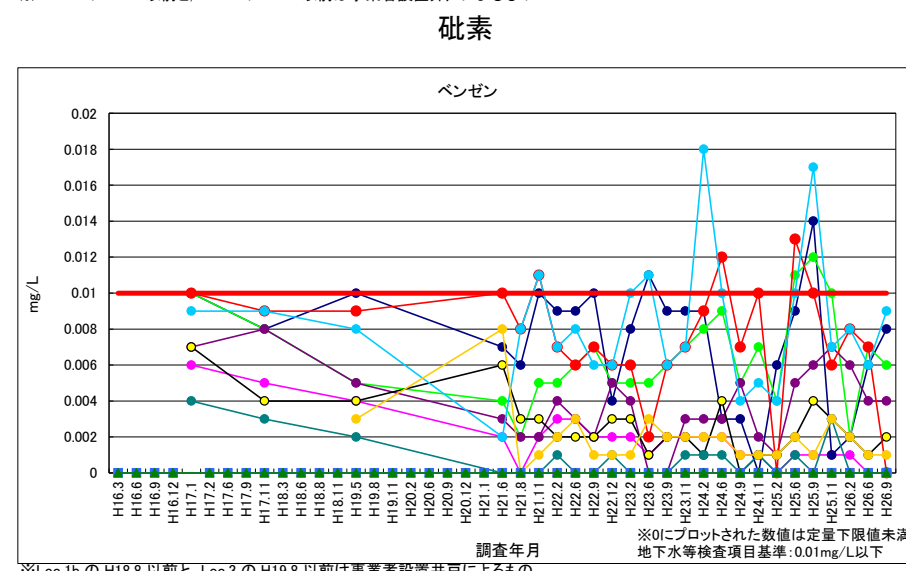
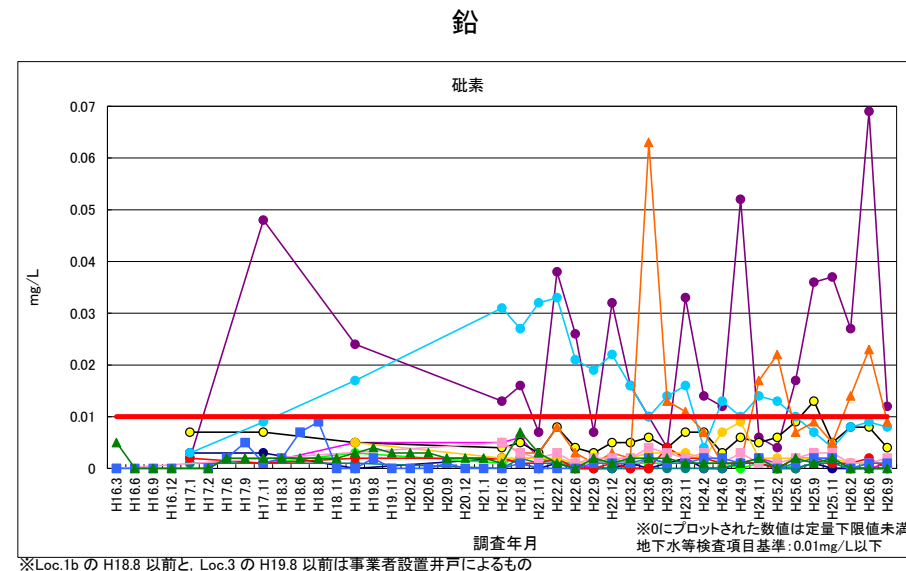
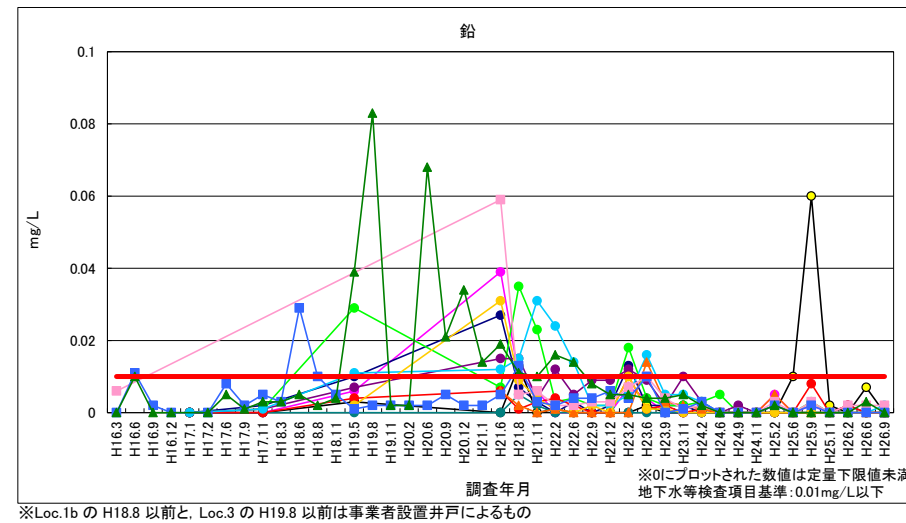
処分場内の廃棄物により汚染された浸透水の地下水への拡散又はそのおそれを把握するため、処分場内の浸透水観測井戸 9 地点 (No.3, No.5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15) 及び処分場周辺の地下水観測井戸 7 地点 (Loc1, Loc1a, Loc1b, Loc3, H16-15, H16-1b, H17-19) 合計 16 地点で 6 月と 9 月に水質調査を実施した(Loc.1, H16-15 及び H16-1b は 9 月から実施)。その結果は、次のとおりであった。なお、測定回数を年 1 回とした 17 項目については、浸透水の 9 地点で 9 月に実施した。

(1) 処分場内の浸透水

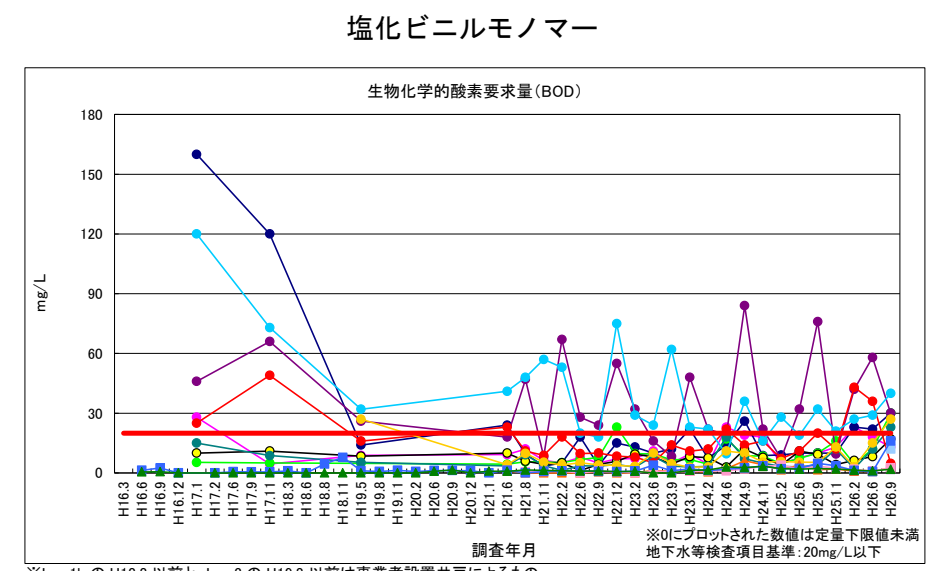
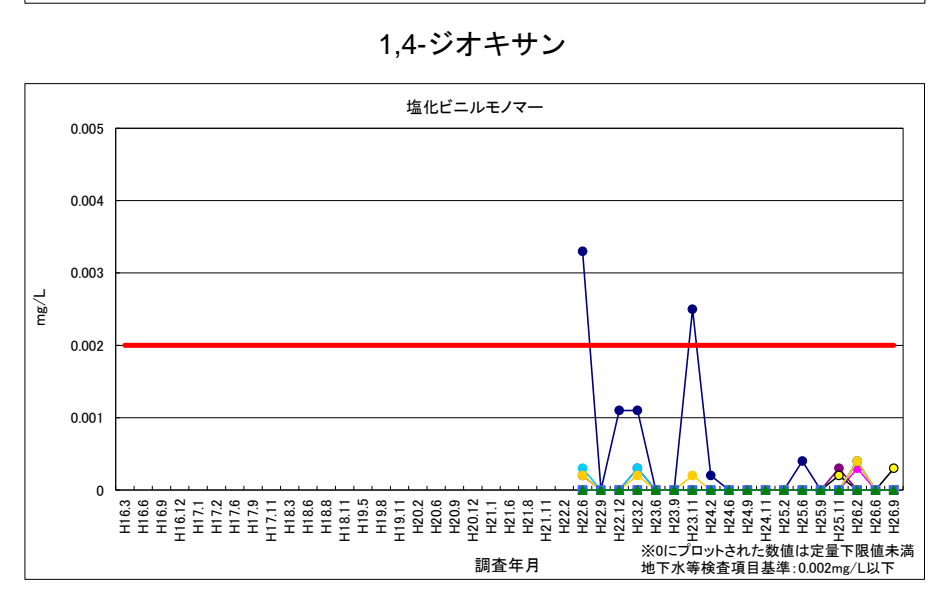
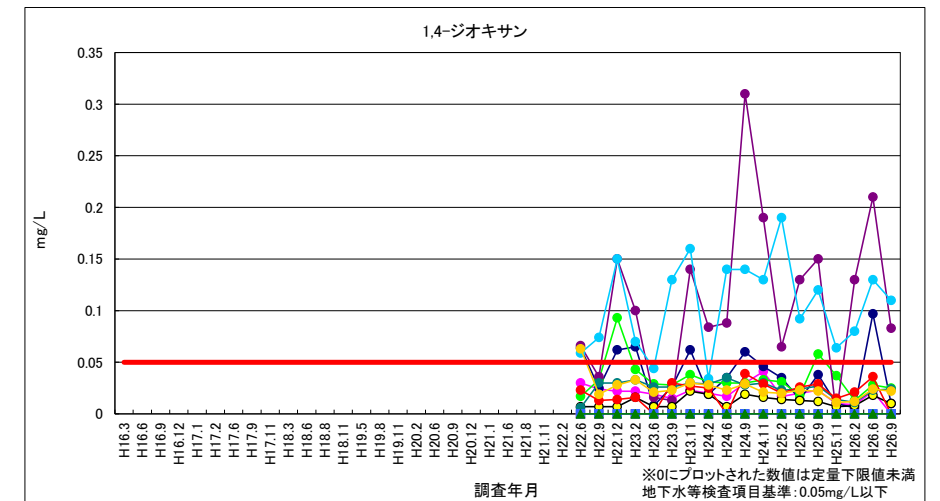
- 廃棄物処理法に定める地下水等検査項目基準等が適用される項目については、砒素が H16-5 で、BOD が No.5, H16-3, H16-5, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15 で基準に適合しなかった。
- 平成 22 年度から測定を開始した 1,4-ジオキサンは、すべての地点で検出されており、No.5, H16-5, H16-13 は地下水等検査項目基準値 (0.05mg/L) を超過していた。
- その他の項目のうち、地下水環境基準が適用にされる項目については、ほう素とふっ素がすべての地点で基準に適合しなかった。
- 地下水等検査項目基準に適合しなかった項目の経年変化をみると、砒素は、これまで H16-5, H16-6, H16-13, H17-19 の 4 地点で検出されており、観測値にばらつきはあるが、横ばいの傾向にある。BOD も、横ばい傾向にある。
- 地下水環境基準に適合しなかったふっ素とほう素の経年変化は、横ばい傾向にある。
- 上記以外の項目については、地下水等検査項目基準及び地下水環境基準に適合していた。

(2) 処分場周辺の地下水

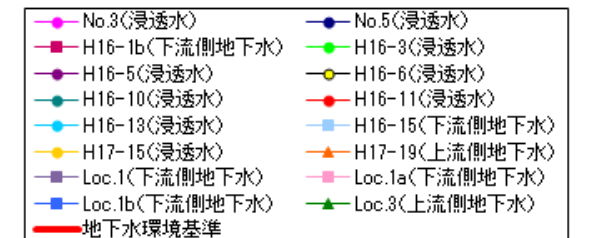
- 処分場上流側観測井戸 (Loc.3, H17-19), 及び処分場下流側観測井戸 (Loc.1, Loc.1a, Loc.1b, H16-1b, H16-15) の地下水は、H17-19 の砒素以外は、地下水等検査項目基準等及び地下水環境基準に適合していた。

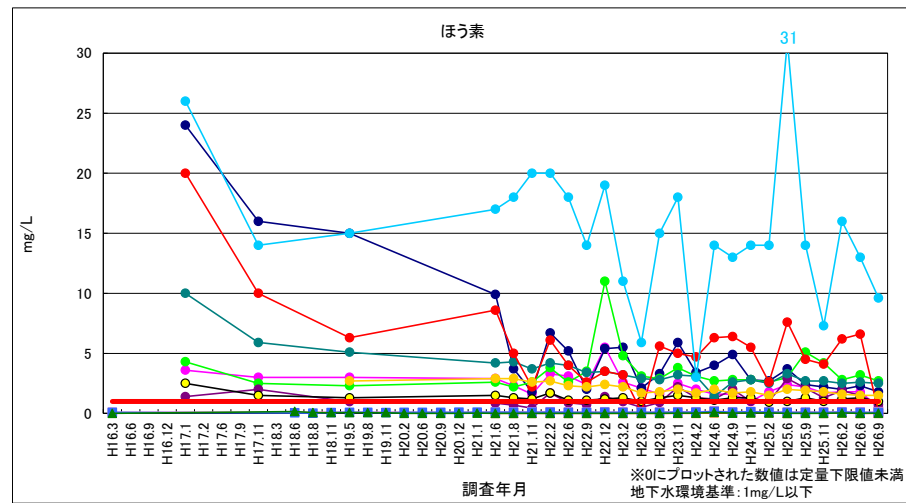


※Loc.1b の H18.8 以前と、Loc.3 の H19.8 以前は事業者設置井戸によるもの



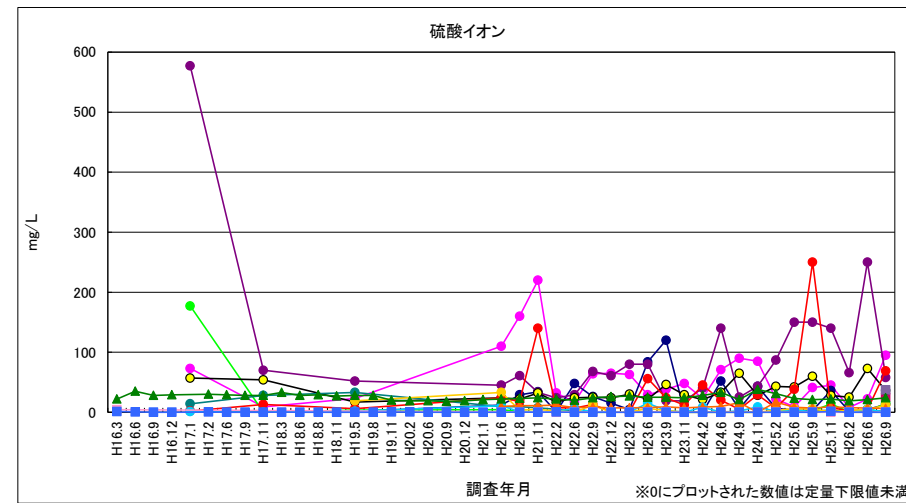
※Loc.1b の H18.8 以前と、Loc.3 の H19.8 以前は事業者設置井戸によるもの





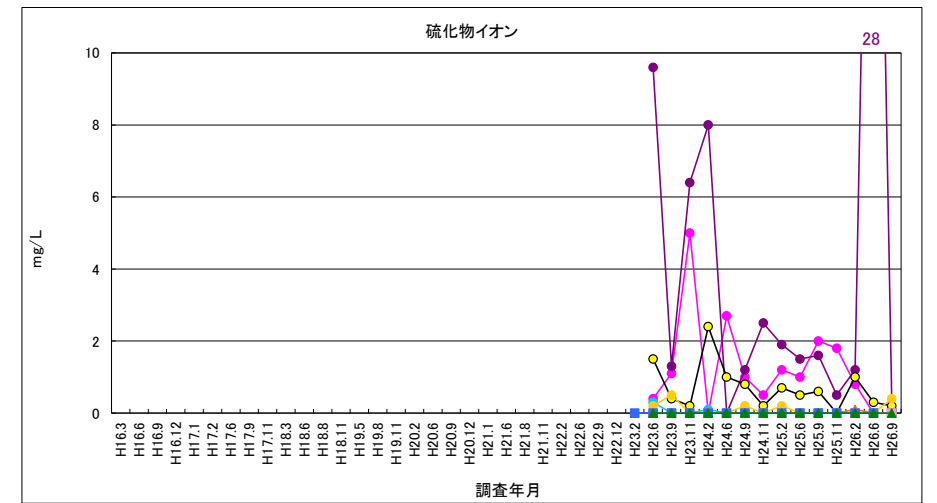
※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

ほう素



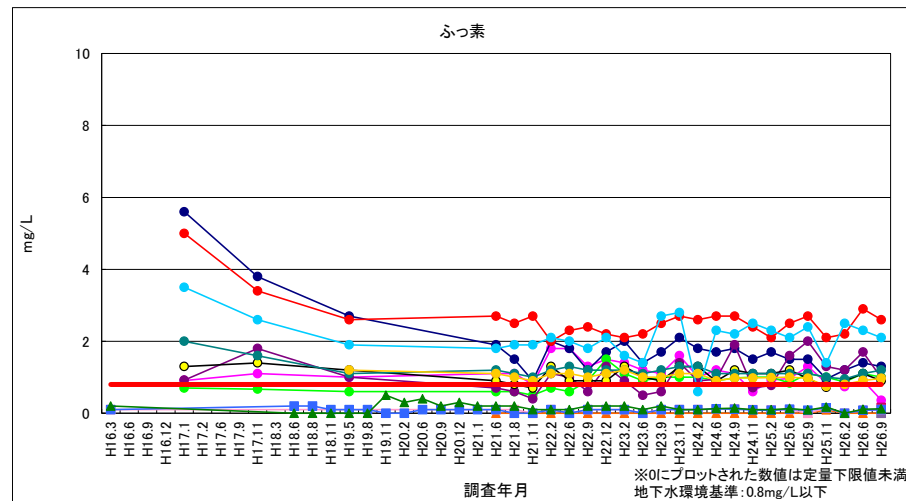
※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

硫酸イオン



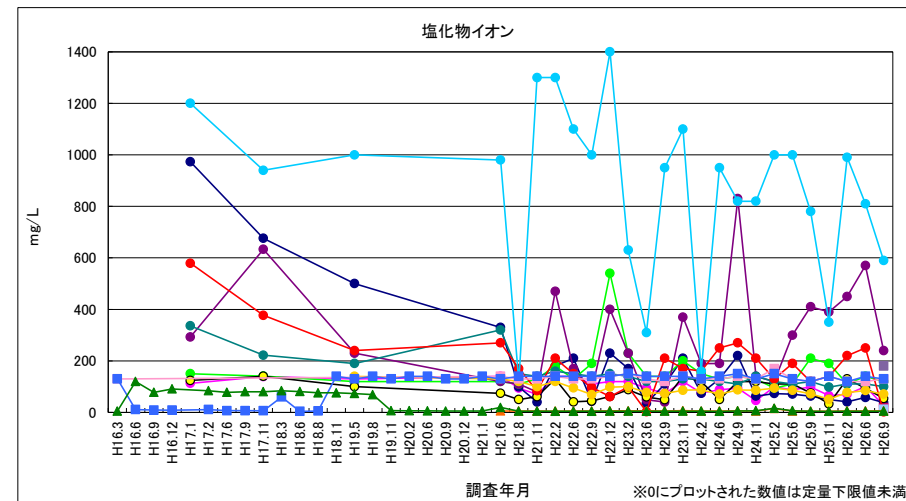
※Loc.1BのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

硫化物イオン



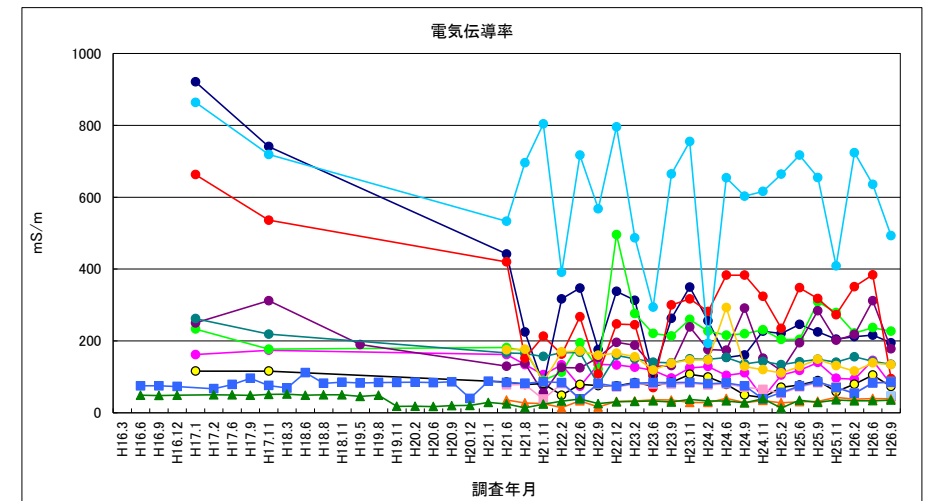
※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

ふっ素



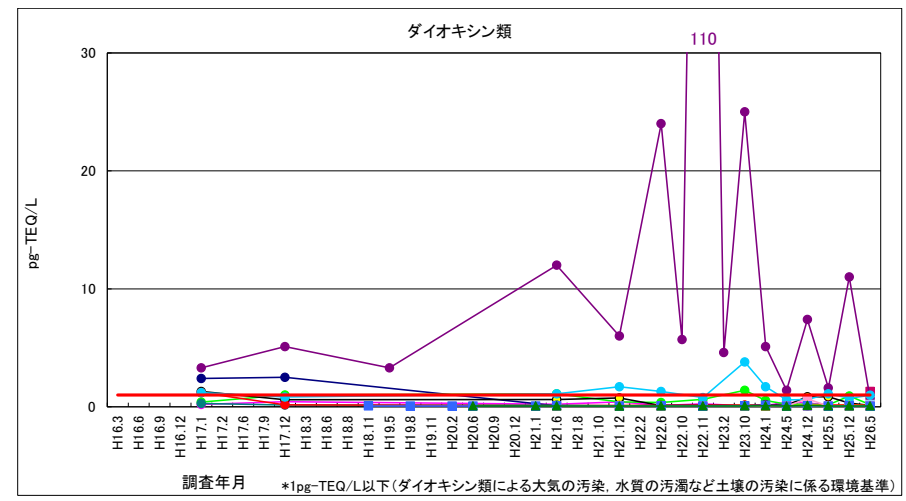
※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

塩化物イオン



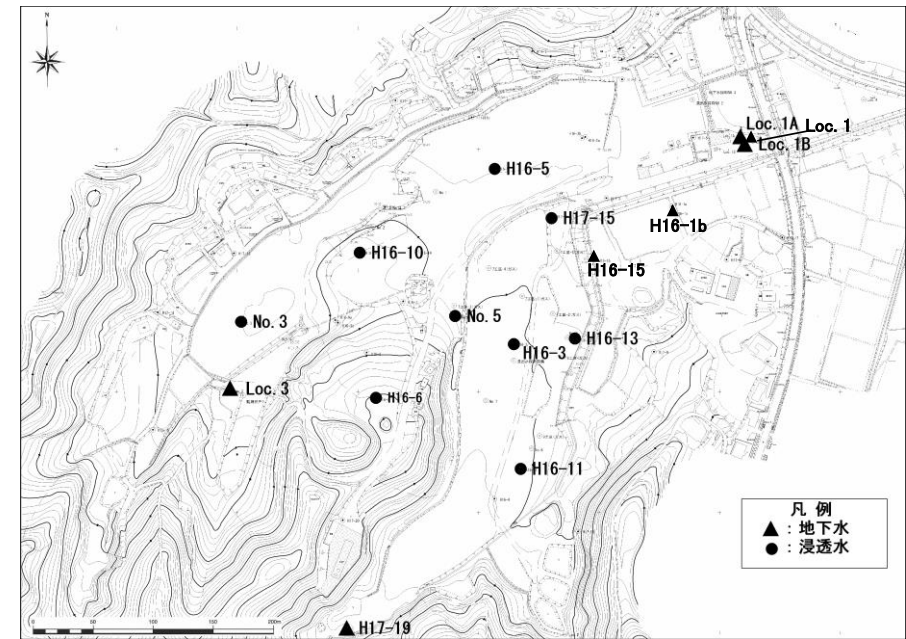
※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

電気伝導率



※Loc.1bのH18.8以前と、Loc.3のH19.8以前は事業者設置井戸によるもの

ダイオキシン類



浸透水及び地下水水質調査地点図

- No.3(浸透水)
- No.5(浸透水)
- ▲ H16-1b(下流側地下水)
- H16-3(浸透水)
- H16-5(浸透水)
- H16-6(浸透水)
- H16-10(浸透水)
- H16-11(浸透水)
- H16-13(浸透水)
- ▲ H16-15(下流側地下水)
- H17-15(浸透水)
- ▲ H17-19(上流側地下水)
- ▲ Loc.1(下流側地下水)
- ▲ Loc.1a(下流側地下水)
- ▲ Loc.1b(下流側地下水)
- ▲ Loc.3(上流側地下水)
- 地下水環境基準

2.3 処分場内の状況把握に関する環境モニタリング

2.3.1 発生ガス等調査・下流地下水状況調査及び放流水状況調査

処分場の状況を確認するため、処分場内の観測井戸 11 地点 (No.3, No.5, H16-3, H16-5, H16-6, H16-10, H16-11, H16-13, H17-15, 7-2, 7-4) で、硫化水素等の発生ガスや浸透水についての調査を毎月実施した。また、No.3 および No.5 の噴出防止工 (No.3: No.3a, No.3b, No.5: No.5a, No.5b) で発生ガスの観測を行った。

下流地下水状況調査として処分場下流側の観測井戸 5 地点 (Loc.1, Loc.1a, Loc.1b, H16-1b, H16-15), 放流水状況調査として 1 地点 (放流水採取地点) で水質調査を毎月実施した。その結果は、次のとおりであった。

(1) 発生ガス

- 硫化水素濃度は、全て 100ppm 以下であった。
- 硫化水素濃度の経年変化を見ると、低下傾向か低レベルで横ばいの傾向であった。過去に高い値を示していた H16-11 については、定量下限値*(0.2ppm)未満から最大でも 0.3ppm の範囲まで低下していた。
- メタン濃度は 0～95%の範囲で測定され、No.3 で最大 95% を示したほか、H16-5 が 82～91%と、他の地点よりメタン濃度が高い傾向を示した。
- メタン濃度の経年変化は、観測点によって異なる傾向を示した。これまで高い値を示す傾向にあった地点 H16-11 は、0～20%に低下している。H25 年度にやや増加傾向にあった H16-10 も 15～71%と減少傾向に転じた。
- 発生ガス量は、H16-5 が他の地点より高い数値を示している (最大 2.7L/分)。H16-5 及び 7-4 以外の観測井戸は 1L/分以下であり、H16-10, H17-15, 7-2 では 0.01L/分未満であった。
- 発生ガス量の経年変化はやや減少傾向か横ばい傾向にある。
- No.3 及び No.5 については、ガスが浸透水を伴って噴出する事象が発生しており、H26 年 7 月には噴出防止工が完了したが、その後、No.3 については 9 月の採水時に噴出が認められた。

※ 検知管式ガス測定器による測定における定量下限値

(2) 浸透水

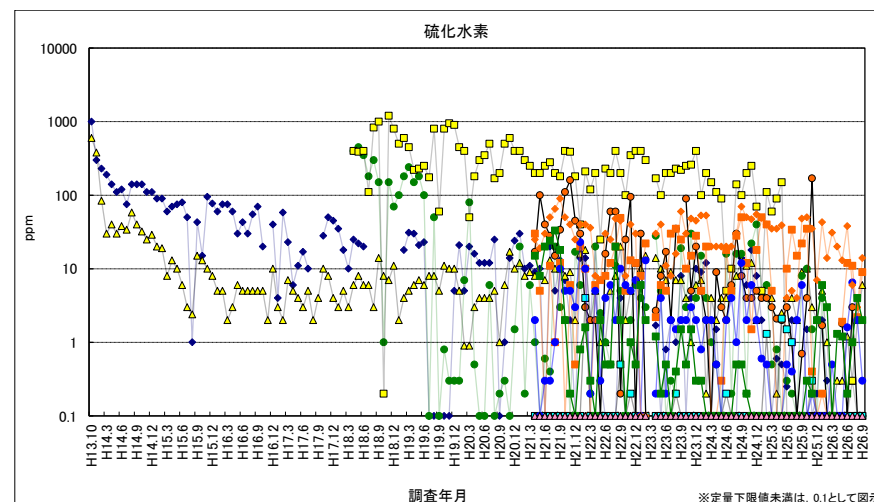
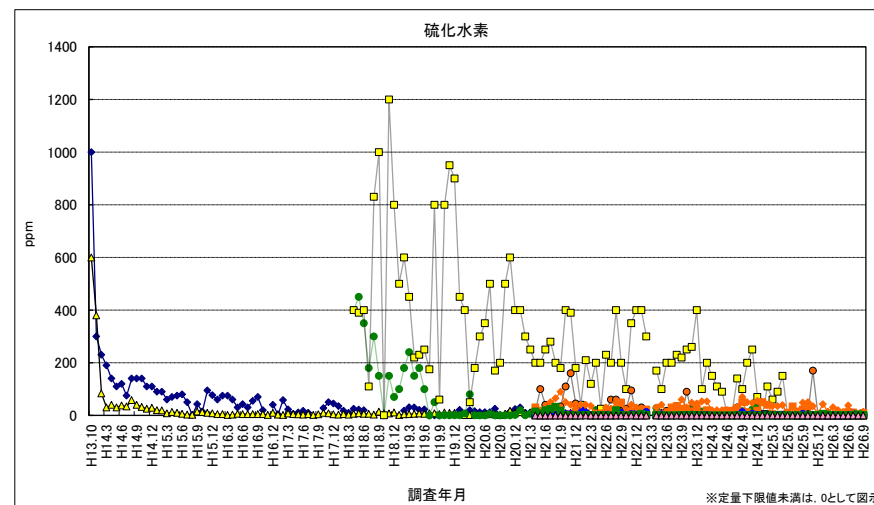
- 硫酸イオン濃度は、変動が大きいですが、100mg/L を超過する地点は No.3, No.5, H16-5, 7-2, 7-4 であった。特に 7-2 では 270mg/L(6 月)であった。
- 塩化物イオン濃度は、H16-3, H16-5, H16-13 で高い値を示し、それぞれ最大で 230mg/L, 510mg/L, 760mg/L を示した。地点 H16-13 はこれまで 8～1300mg/L と他の地点に比べ高い値を示していたが、年平均で見ると、5 年間で 400mg/L 低下し、平成 26 年度上期には平均値が 600mg/L まで低下した。

(3) 下流地下水

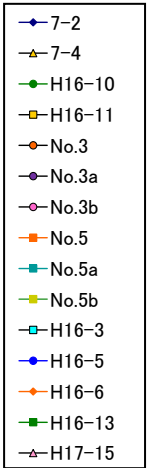
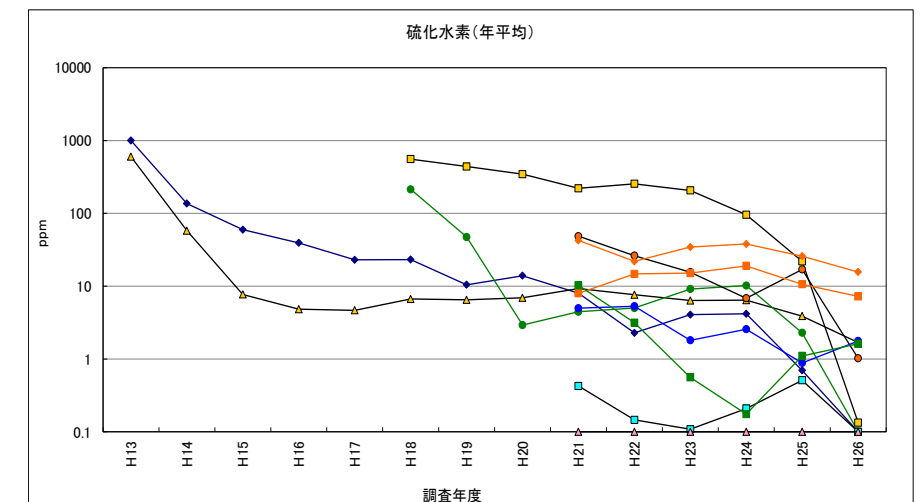
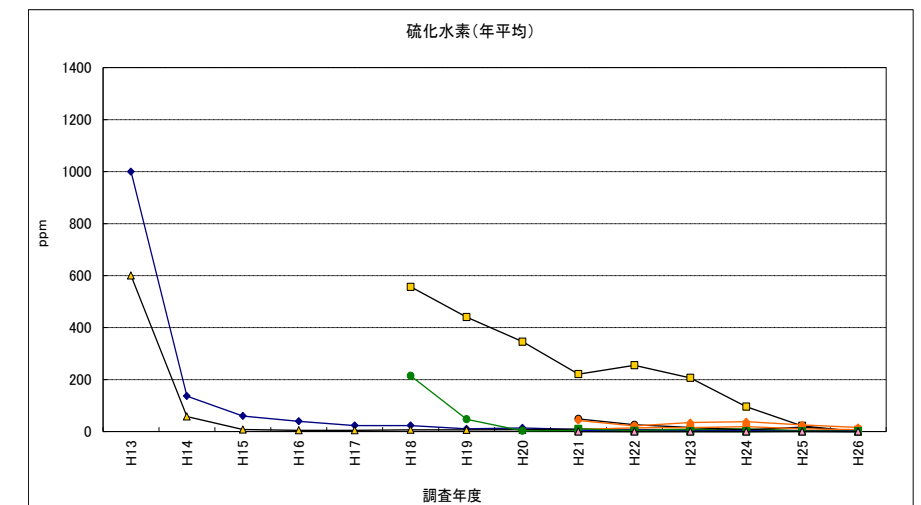
- 硫酸イオン濃度が 1～32mg/L, 電気伝導率が 14～90mS/m で推移し、塩化物イオン濃度が 7～170mg/L の範囲で推移した。

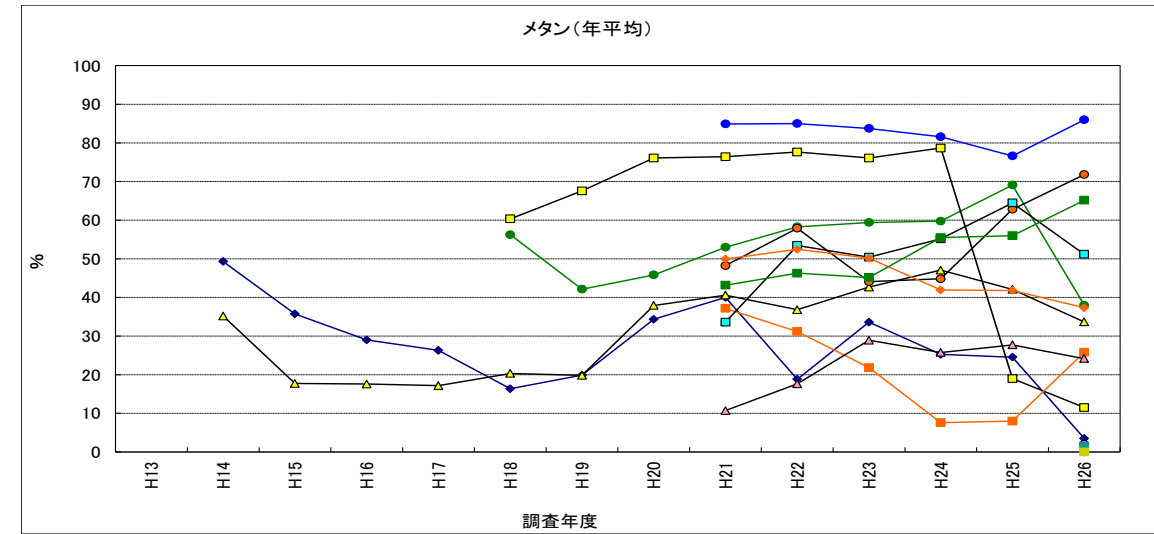
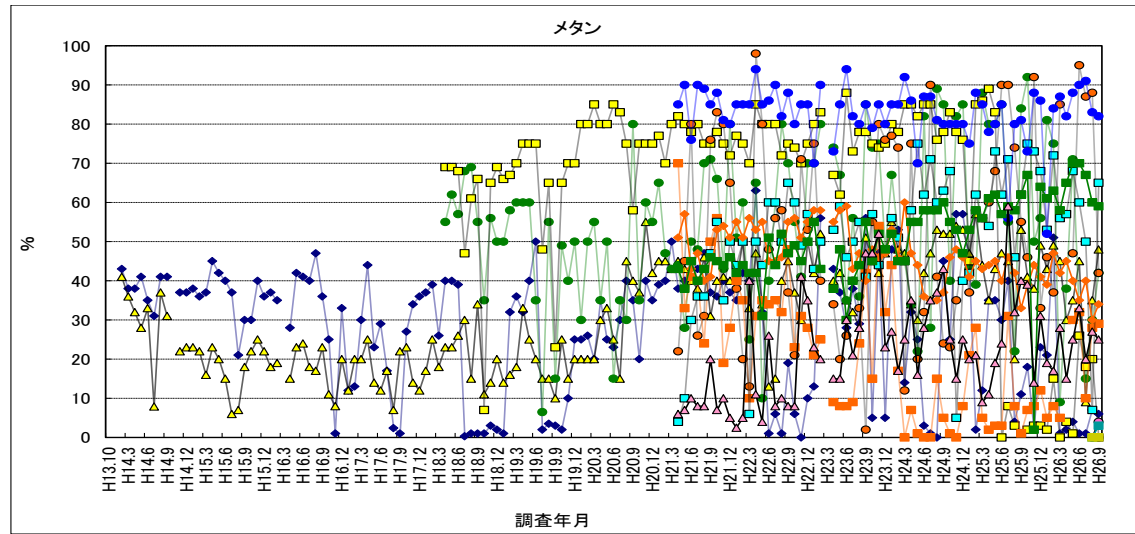
(4) 放流水

- 硫酸イオン濃度は 2.0～4.6mg/L, 塩化物イオン濃度は 83～140mg/L, 電気伝導率は 110～180mS/m の間で推移した。

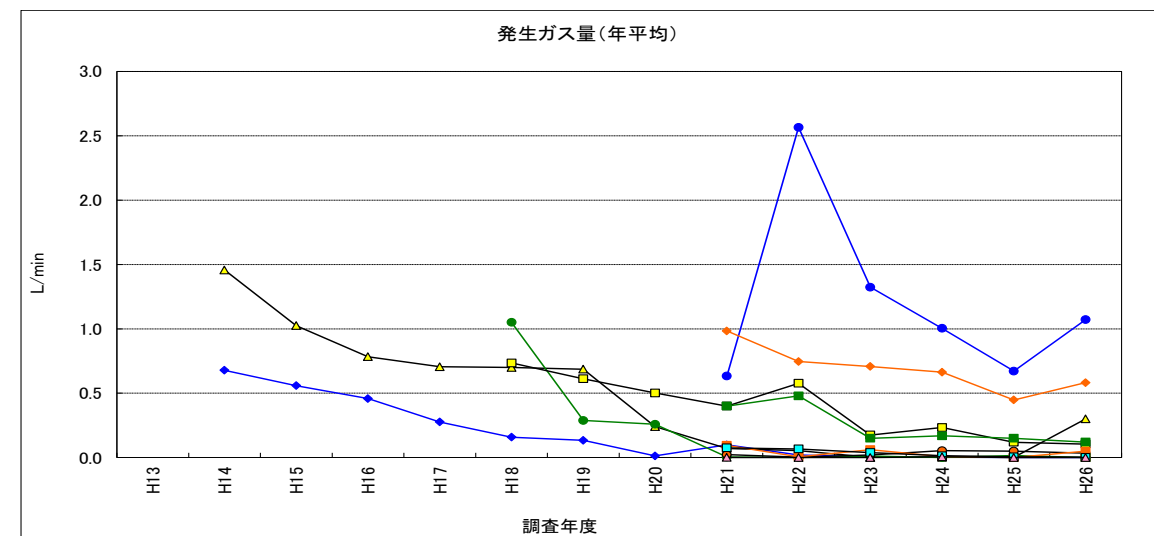
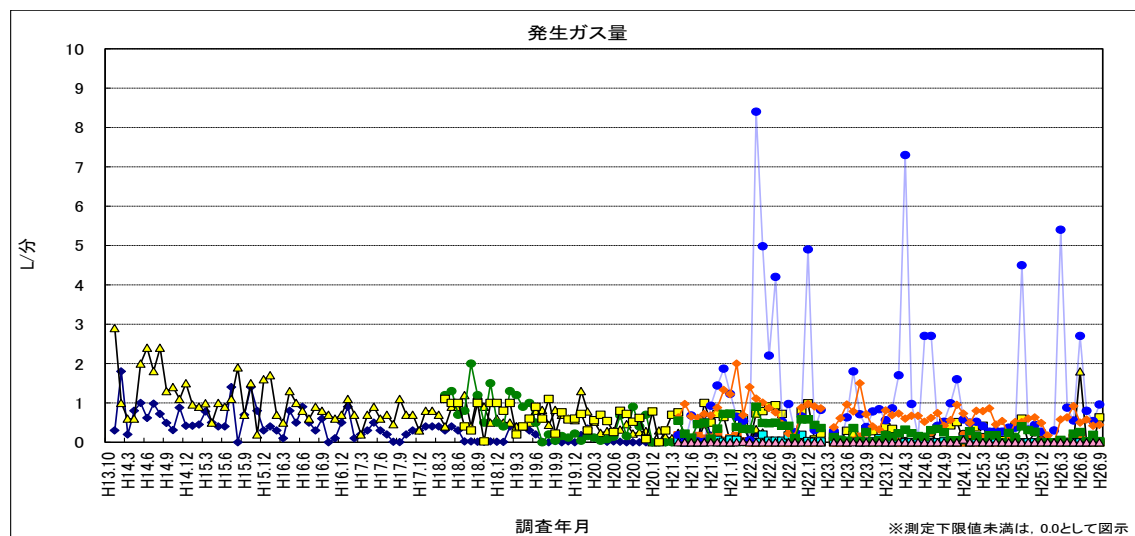


硫化水素 (管頭下 1m で測定) ※下図：対数表示

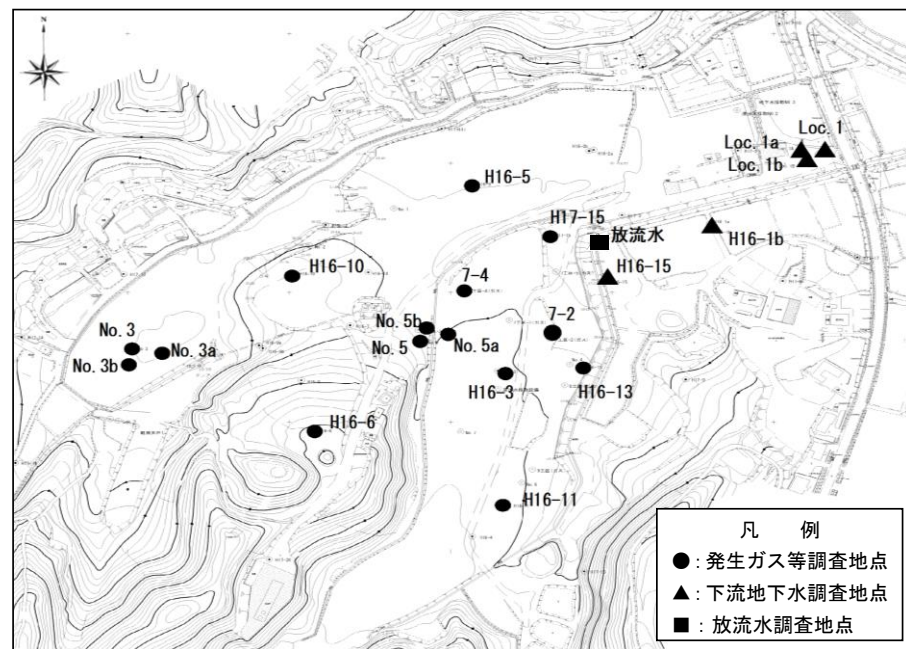




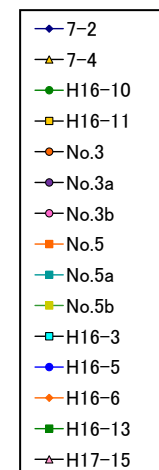
メタン (管頭下1mで測定)

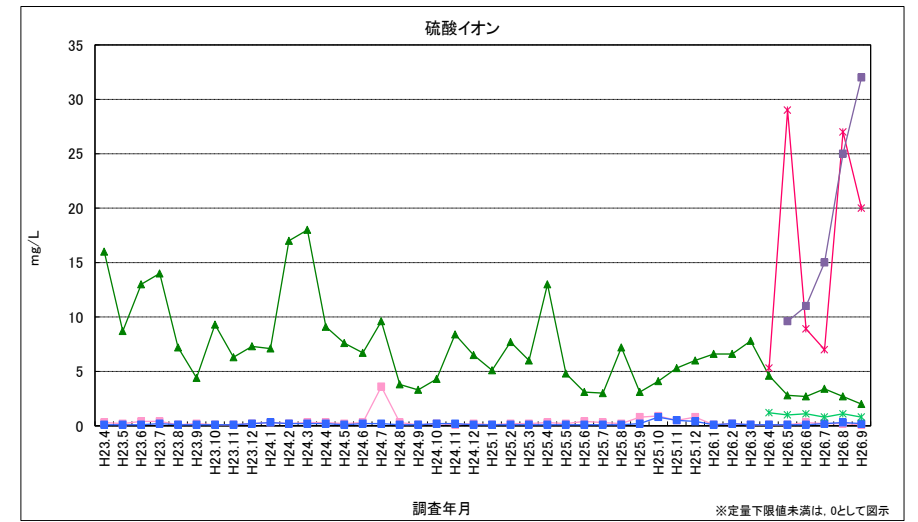
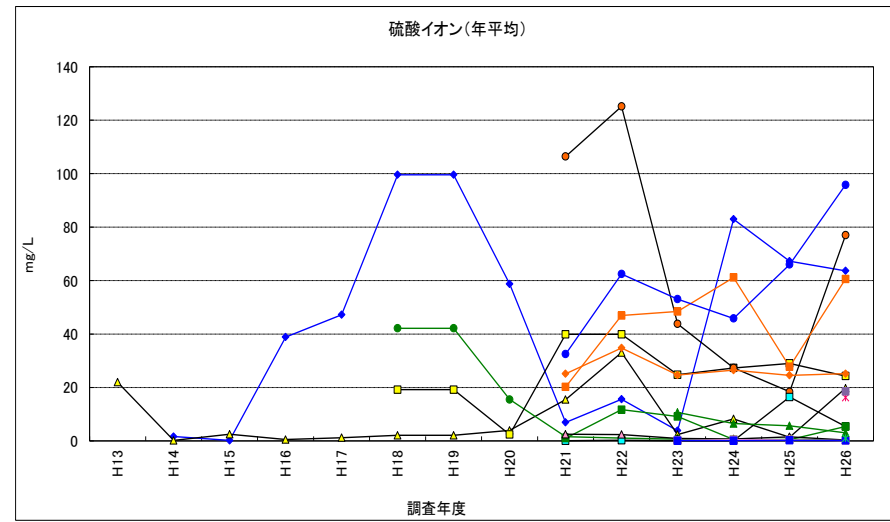
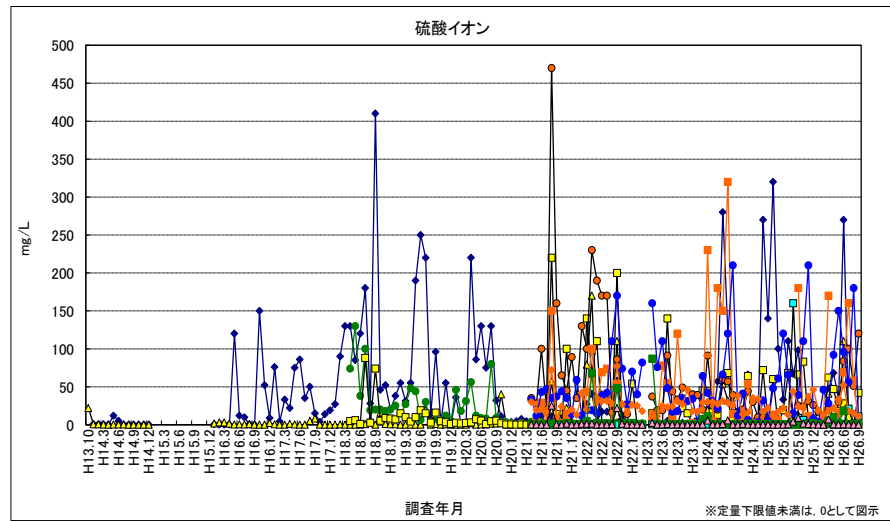


発生ガス量



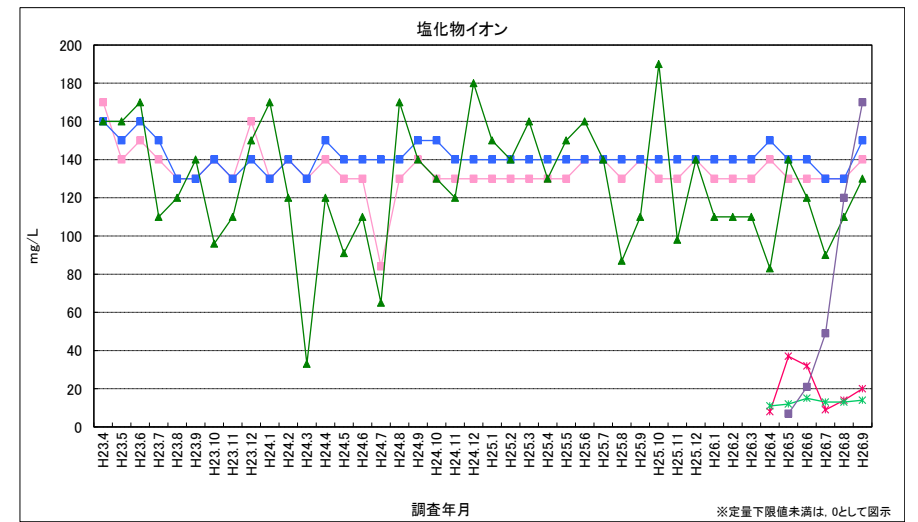
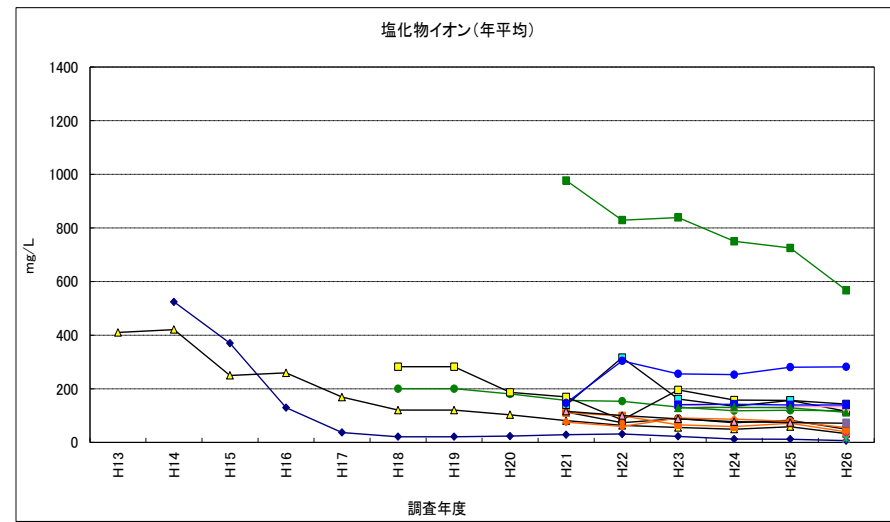
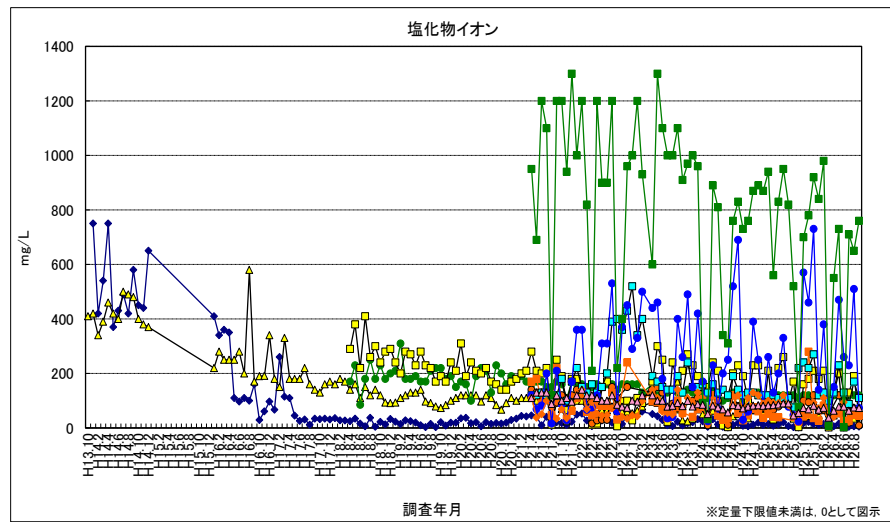
発生ガス等調査・下流地下水状況調査・放流水状況調査地点図





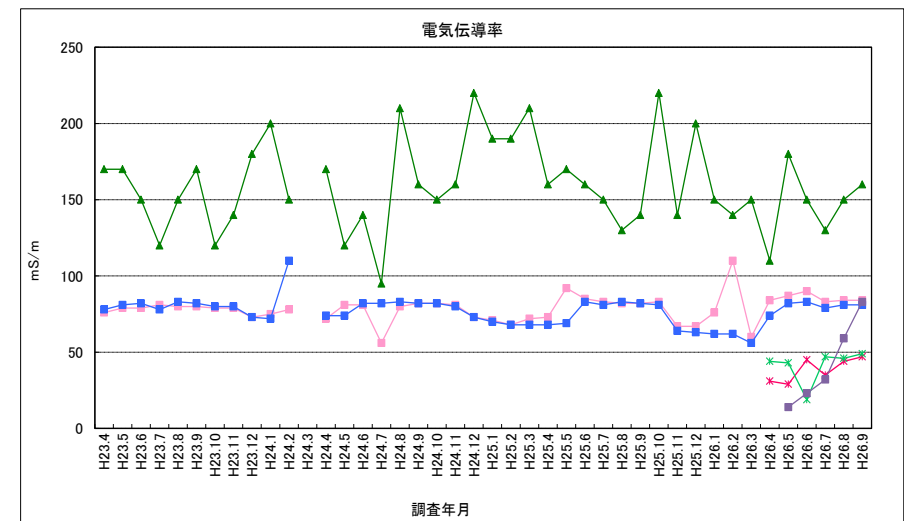
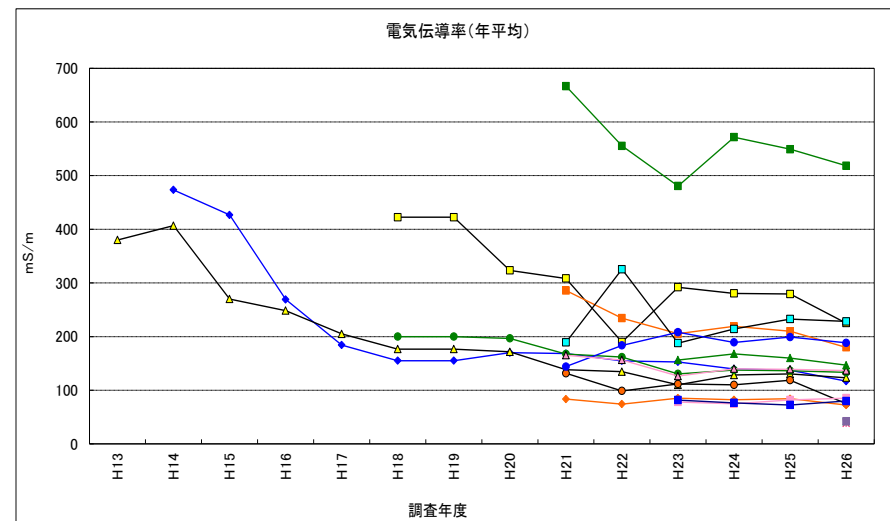
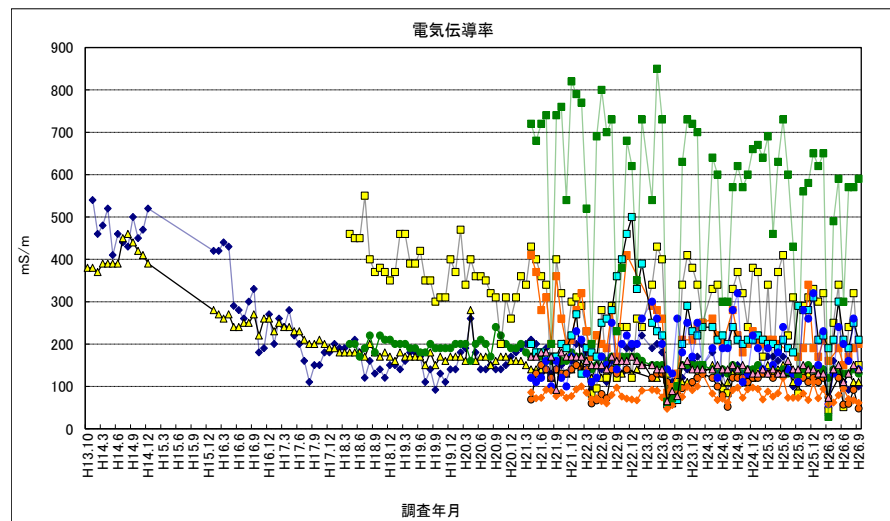
硫酸イオン (浸透水)

硫酸イオン (下流地下水, 放流水)



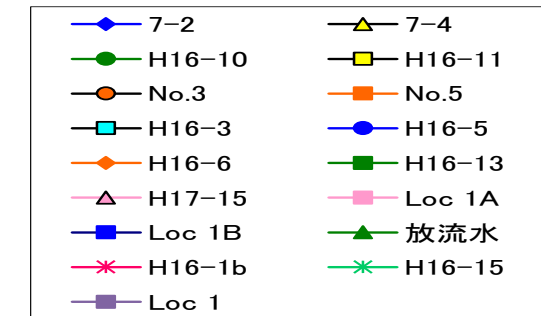
塩化物イオン (浸透水)

塩化物イオン (下流地下水, 放流水)



電気伝導率 (浸透水)

電気伝導率 (下流地下水, 放流水)



(2) 地下水水位調査

- 廃棄物埋立区域外の地下水水位は、上流側で標高 16.85～21.49 mの間で変動し、H17-19 では最大 1.60mの高低差であった。また、下流側では標高 12.82～15.20mの間で変動し、Loc.4 で最大 2.16mの高低差を示した。
- 廃棄物埋立区域内の地下水の水位は、上流側で標高 16.91～18.36mの間で変動し、H16-6 では最大 1.22mの高低差であった。また、下流側では標高 16.06～17.45mの間で変動し、H16-5 で最大 0.71mの高低差であった。
- 処分場内の浸透水の水位は、上流側から下流側へと低くなっていることから、上流側から下流側へ流下しているものと推察される。

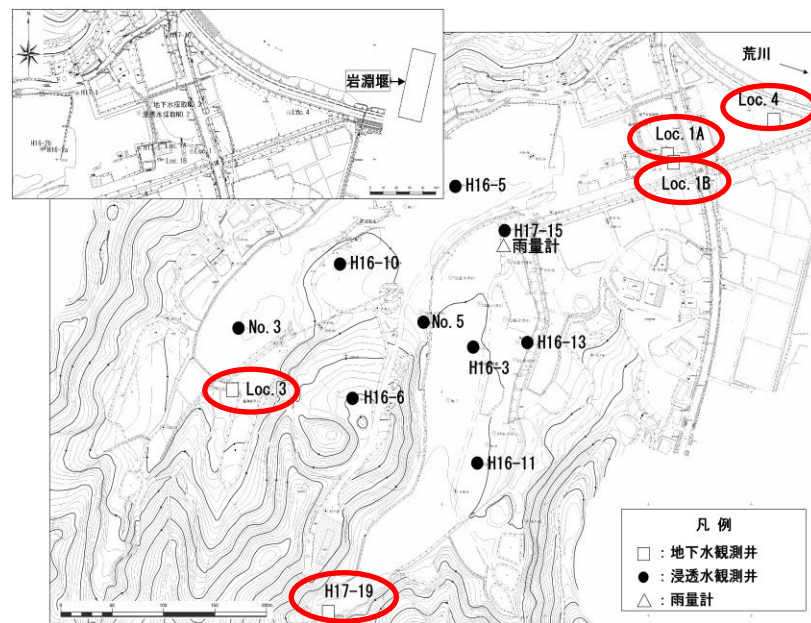
最高水位・最低水位・最低水位と最高水位の高低差表

区分	孔番		H23年度		H24年度上期		H24年度下期		H25年度上期		H25年度下期		H26年度上期		
			水位標高(m)	高低差(m)	水位標高(m)	高低差(m)	水位標高(m)	高低差(m)	水位標高(m)	高低差(m)	水位標高(m)	高低差(m)	水位標高(m)	高低差(m)	
廃棄物埋立区域外	上流	Loc.3	最高	17.65	1.05	17.92	1.06	17.15	0.50	17.68	1.22	17.68	1.22	18.01	1.16
			最低	16.60		16.86		16.65		16.46		16.46		16.85	
	H17-19	最高	21.84	1.71	21.81	1.55	21.06	1.15	21.43	1.66	21.44	1.35	21.49	1.60	
		最低	20.13		20.26		19.91		19.77		20.09		19.89		
		Loc.1a	最高	16.36	1.06	15.54	0.74	15.10	0.66	15.11	0.68	14.99	0.59	15.20	0.65
			最低	15.30		14.80		14.44		14.44		14.40		14.55	
Loc.1b	最高	16.57	1.31	15.43	0.56	15.03	0.62	14.95	0.55	14.83	0.50	15.02	0.55		
	最低	15.26		14.87		14.41		14.40		14.33		14.47			
Loc.4	最高	16.36	3.59	16.33	3.50	14.27	1.43	14.87	2.03	14.41	1.59	14.98	2.16		
	最低	12.77		12.83		12.84		12.84		12.82		12.82			
廃棄物埋立区域内	上流	No.3	最高	17.91	1.36	17.89	1.08	17.24	0.82	17.70	1.27	17.89	1.43	17.99	1.08
			最低	16.55		16.81		16.42		16.43		16.46		16.91	
		H16-6	最高	17.90	1.47	18.08	1.35	17.09	0.73	17.72	1.43	18.00	1.49	18.20	1.22
			最低	16.43		16.73		16.36		16.29		16.51		16.97	
		H16-11	最高	17.99	1.07	18.16	0.85	17.61	0.77	18.07	1.22	18.28	1.22	18.36	0.90
			最低	16.92		17.31		16.84		16.85		17.06		17.47	
	H16-10	最高	17.64	1.13	17.84	1.07	17.15	0.75	17.64	1.24	17.83	1.29	17.92	0.94	
		最低	16.51		16.77		16.40		16.39		16.54		16.99		
	No.5	最高	17.63	1.41	18.17	1.30	17.26	0.80	17.82	1.35	18.11	1.45	18.28	1.56	
		最低	16.22		16.87		16.46		16.46		16.66		16.71		
	H16-3	最高	17.41	0.95	17.52	0.78	17.07	0.75	17.27	0.98	17.59	1.16	17.66	0.82	
		最低	16.46		16.74		16.32		16.28		16.43		16.84		
	H16-13	最高	16.75	0.70	16.69	0.31	16.48	0.56	16.72	0.78	16.54	0.98	16.48	0.63	
		最低	16.05		16.38		15.92		15.94		15.56		15.86		
下流	H16-5	最高	17.04	0.83	17.16	0.63	16.83	0.62	17.27	1.10	17.43	1.01	17.45	0.71	
		最低	16.21		16.53		16.21		16.17		16.42		16.73		
	H17-15	最高	16.73	0.80	16.69	0.91	-	-	16.58	0.75	16.65	0.81	16.69	0.62	
		最低	15.93		15.78		-	-	15.84		15.84		16.06		

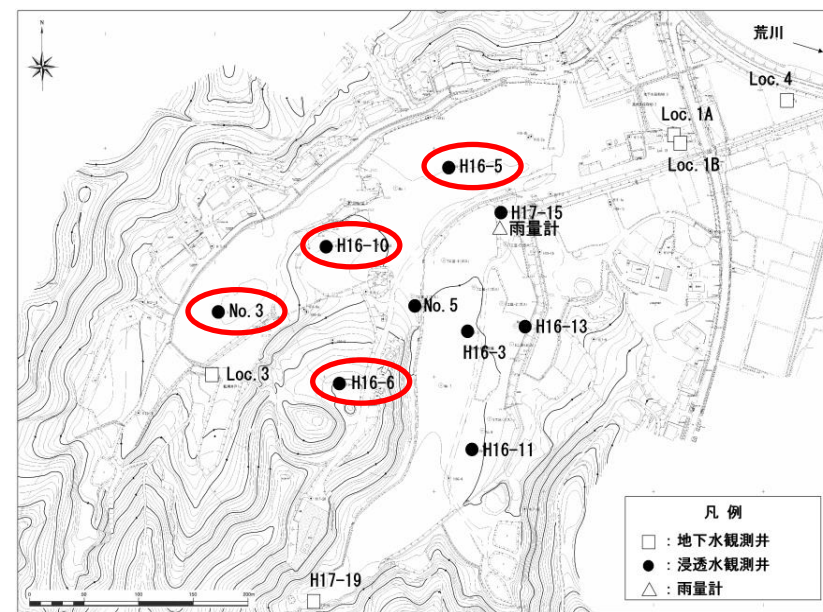
※ 上段:最高水位 下段:最低水位

※ H16-3は平成25年10月1日～10月4日のデータが計器故障のため欠測

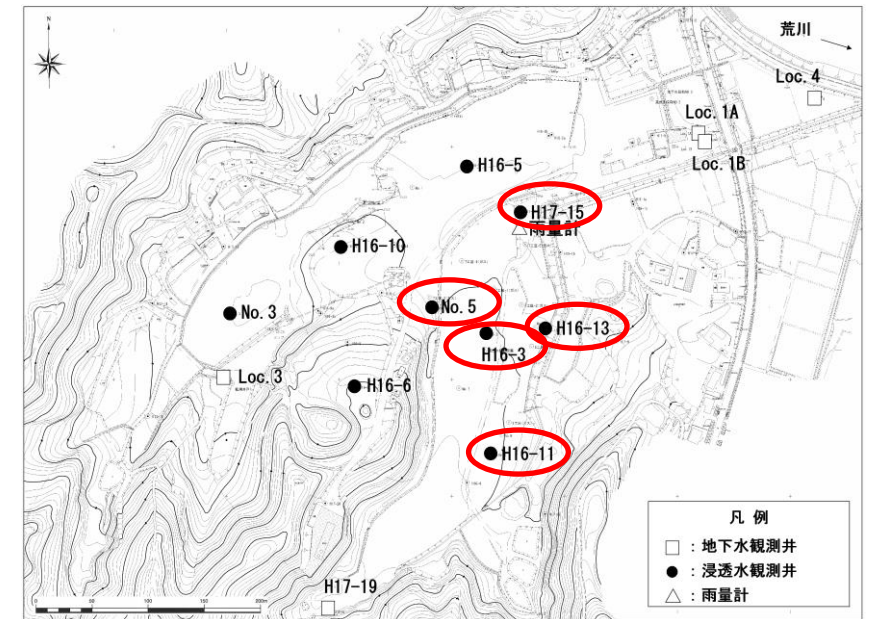
■ :H26年度上期



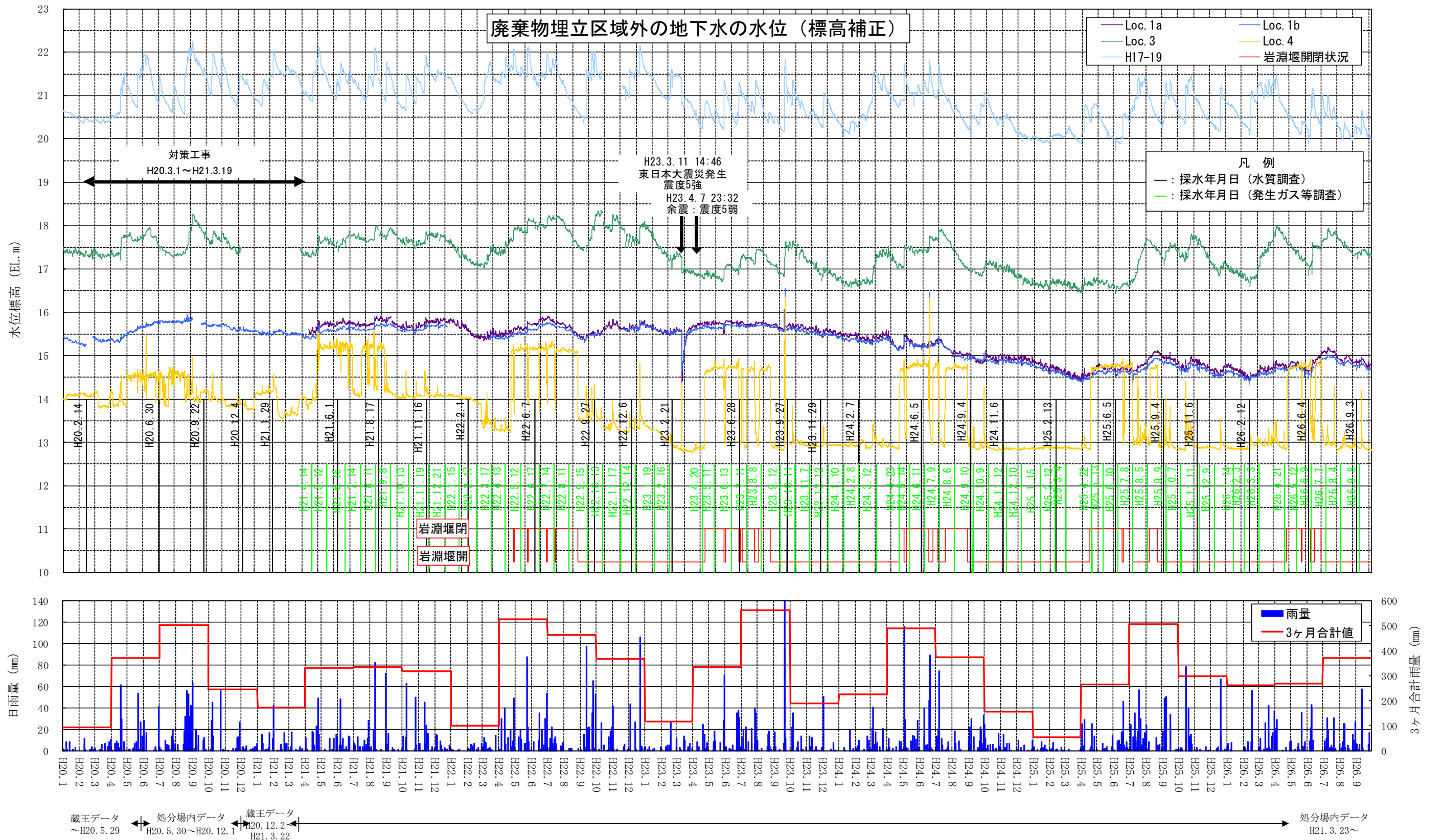
地下水水位調査地点図（廃棄物埋立区域外の地下水の水位）



地下水水位調査地点図（廃棄物埋立区域内の浸透水の水位①）

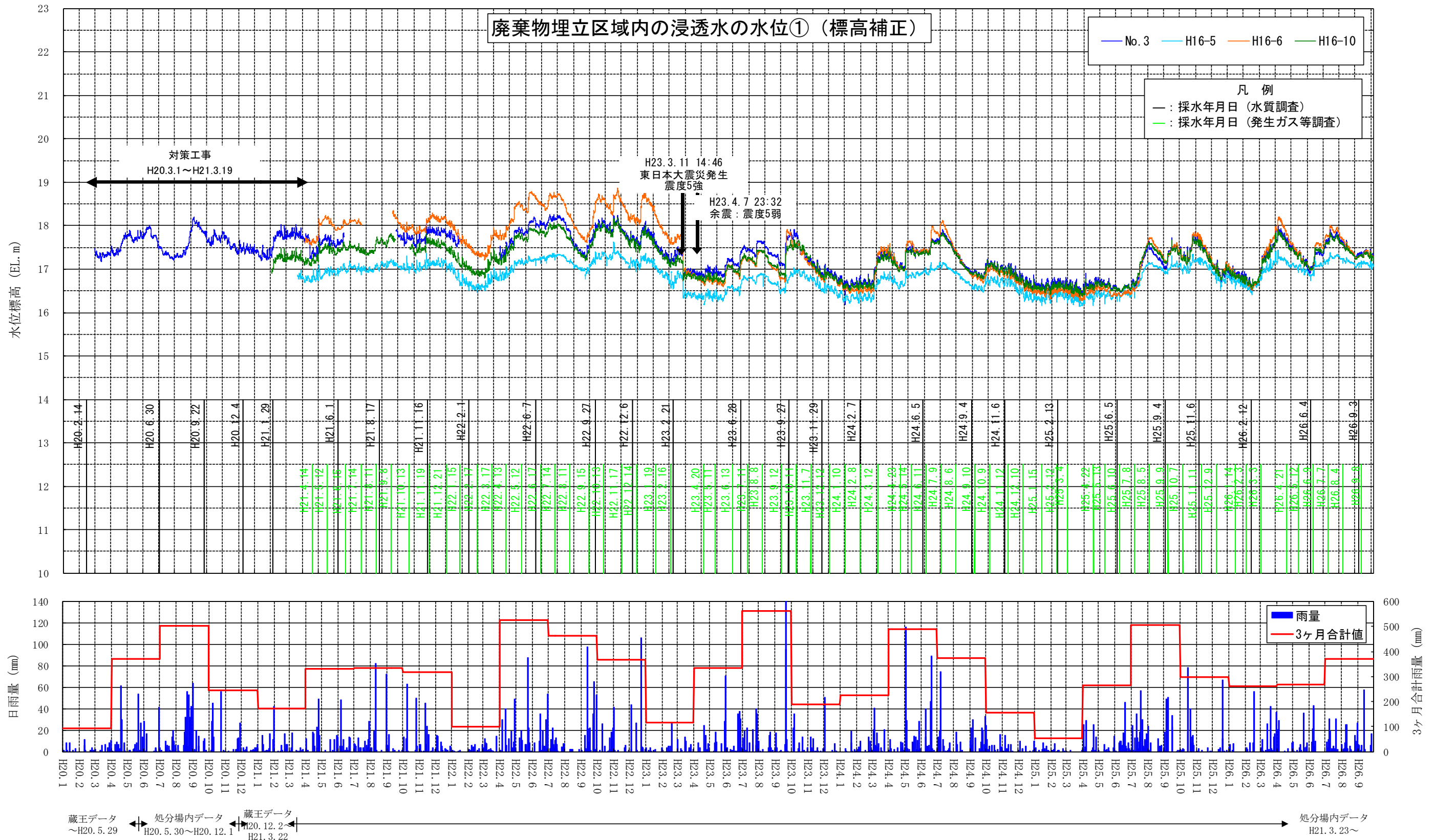


地下水水位調査地点図（廃棄物埋立区域内の浸透水の水位②）



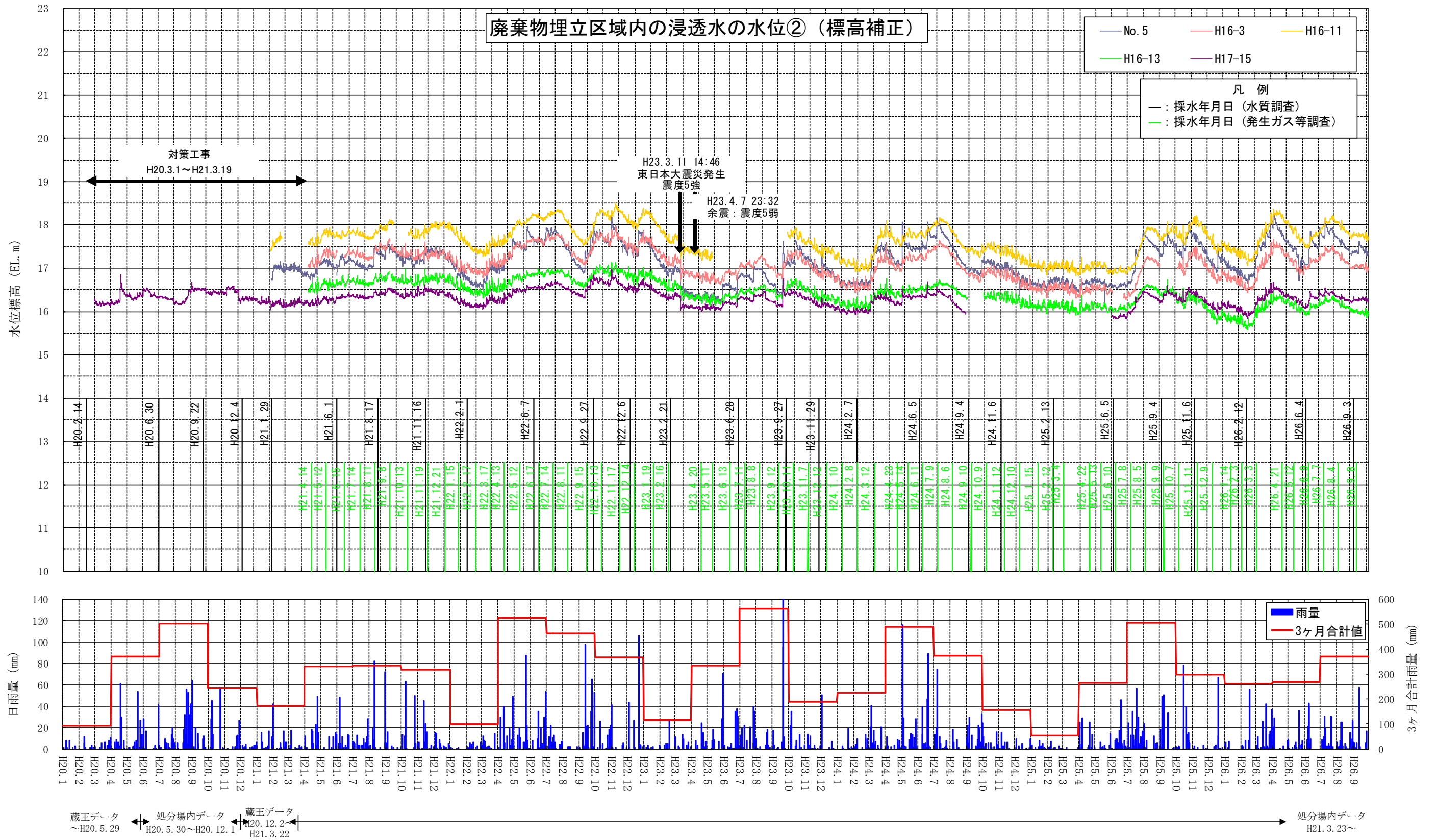
※岩淵堰の開閉については、H21年度より記載。□
 ※平成23年3月の発生ガス等調査に関しては、震災の影響により未実施。

地下水水位経時変化図（廃棄物埋立区域外の地下水の水位）



※平成23年3月の発生ガス等調査に関しては、震災の影響により未実施。

地下水経時変化図 (廃棄物埋立区域内の浸透水の水位①)



※平成23年3月の発生ガス等調査に関しては、震災の影響により未実施。

地下水位経時変化図 (廃棄物埋立区域内の浸透水の水位②)

2.3.3 多機能性覆土状況調査及び地表ガス調査

これまでの多機能性覆土の性能の確認調査で、硫化水素が定量下限値* (0.2ppm) 未満であったことが確認されているため、H26年度から年一回の調査とし、下期に実施予定である。

*検知管式ガス測定器による測定における定量下限値

2.3.4 バイオモニタリング

処分場からの放流水に含まれる複数の物質による周辺環境への影響を確認するため、魚類を用いた水族環境診断法 (AOD 試験) を実施した。放流水と河川水が合流する地点よりも下流側の地点における河川水の半数致死濃度 (以下、「AOD 値」という。) を上流側と比較した。その結果は、以下のとおりであった。なお、AOD 値が 400%以上ならば、河川で魚類の生育に支障がない通常の河川水であるとされている。

- 6月の調査では、AOD 値が荒川上流で 670%、荒川下流で 470%であった。また、9月の調査では AOD 値が荒川上流で 450%、荒川下流で 710%であった。
- AOD 試験法による調査では、全ての AOD 値は 400%以上であったため、放流水の魚毒性は荒川の生態系に影響を及ぼさないレベルであった。
- 調査日直近の降雨状況は、6月の調査では測定日の 8 日前に 8mm の降雨があり、7 日前から当日の降雨はなかった。9月の調査では測定日前日に 6mm の降雨があり、4 日前には 26.5mm もの降雨があった。また、荒川の流量は、6月が 1.55m³/s (上流側)、9月が 1.22m³/s (上流側) であり、放流量は 6月が 0.0030m³/s、9月が 0.0005m³/s で、流量比はそれぞれ 517 倍、2440 倍であった。

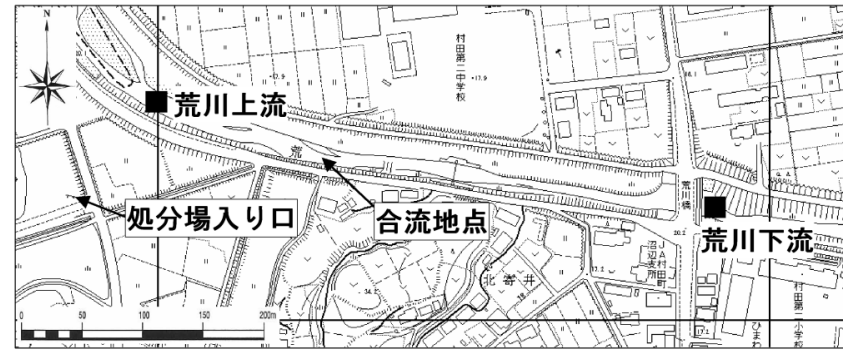


図 2-1 バイオモニタリング (AOD 試験) 位置図

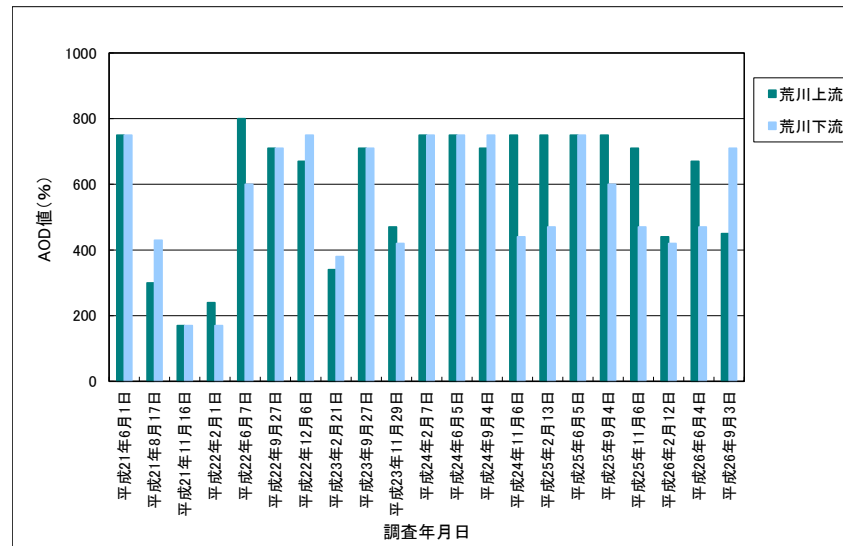


図 2-2 バイオモニタリング (AOD 試験) 結果図

2.4 環境モニタリングの評価 (総括)

平成 26 年度上期においては、後述するような課題を残すものの、処分場敷地境界における硫化水素濃度、処分場下流側地下水の水質は、法令に規定される規制基準等を満たしており、また、有害物質の拡散による大気汚染、放流水の影響による放流先公共用水域の水質悪化や浸透水から地下水への拡散は認められなかった。よって、本調査期間においては、処分場から発生するガス及び処分場の浸透水等に起因する周辺生活環境への影響はきわめて小さいものと判断される。

処分場の環境モニタリングの結果から、指摘された課題は次のとおりである。

- 処分場内 (埋立区域内) の観測井戸では、地中温度が周辺 (対照地点を Loc.1a とした場合) よりも 15℃近く高い地点、浸透水では、砒素、BOD 及び 1,4-ジオキサンが廃棄物処理法に定める地下水等検査項目基準を超える地点、ふっ素及びほう素が地下水環境基準を超える地点があることなど、処分場はまだ安定した状況に至っていない。
- 放流水の大腸菌群数が管理型最終処分場に適用される放流水基準に適合しておらず、河川への影響について注視する必要がある。
- 1,4-ジオキサンについては、浸透水の全ての地点で検出されており、今後の継続したモニタリングから安定化の傾向について判断していく必要がある。
- 発生ガスが浸透水を伴って噴出する事象が発生していた No.3 及び No.5 に対する噴出防止工事を行ったものの、No.3 においては再度噴出が確認されたことから、その対策を講じる必要がある。

このようなことから、引き続き処分場の状況及び生活環境への影響を把握し、処分場の状況に応じた適切な対応を図る必要がある。また、処分場の安定化に向け、必要なデータの集積と解析によって、的確な将来予測への取り組みを進める必要がある。

■ 最終処分場の廃止基準項目とその経年変化（～平成 26 年 9 月）

3. 廃棄物処理法による最終処分場の廃止基準及び達成状況

表 3-1 廃棄物処理法による最終処分場の廃止基準及び達成状況

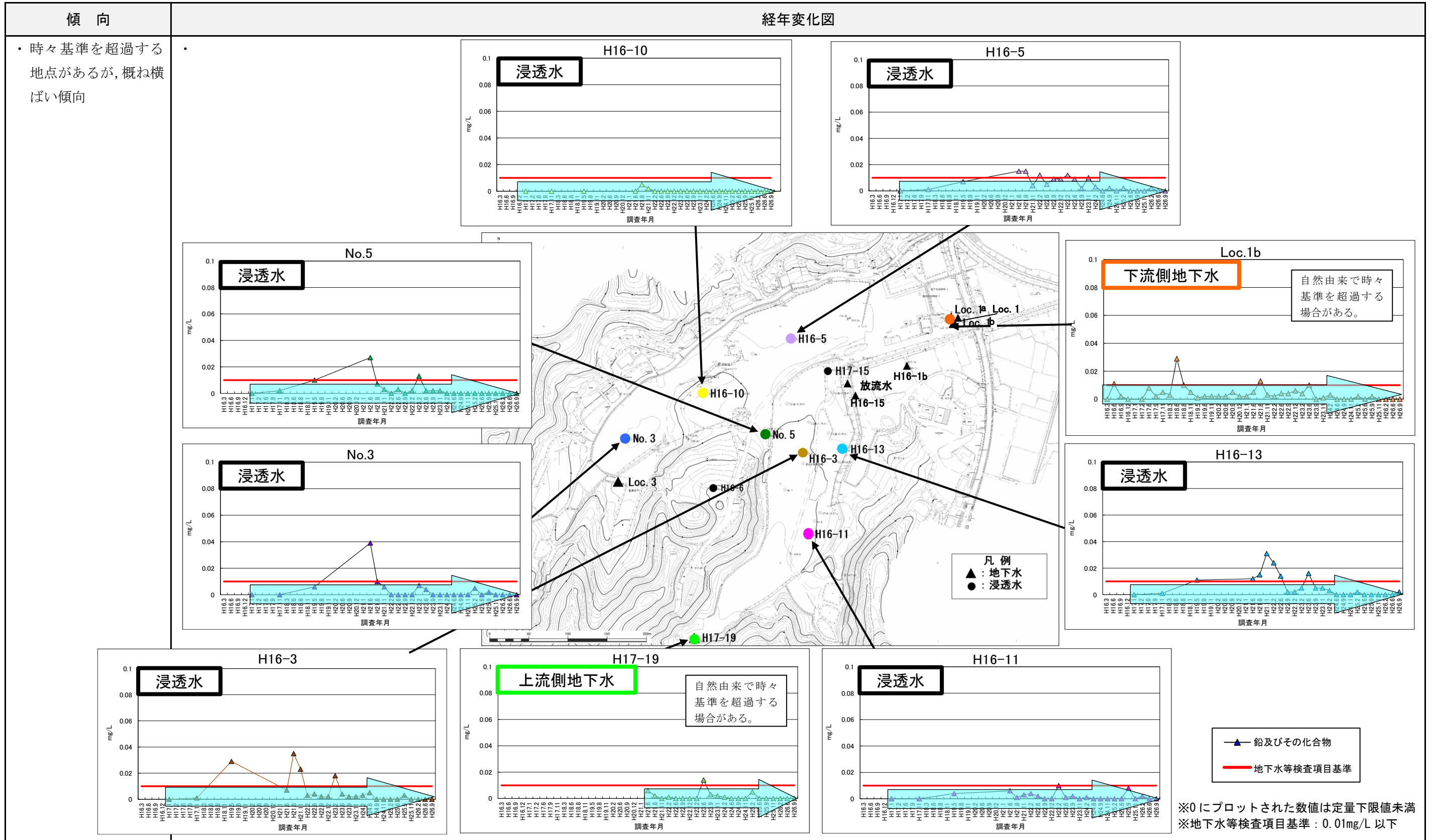
廃止基準項目	処分場において実施している調査	達成状況	廃止基準達成状況
最終処分場の外に悪臭が発散しないように必要な措置が講じられていること。	硫化水素連続調査（24 時間） 処分場敷地境界 2 地点及び村田第二中学校において硫化水素による悪臭の影響を確認	○	・覆土整形（一部多機能性覆土）を実施。 ・平成 21 年 4 月以降 0.02ppm 以上の硫化水素濃度は測定されていない。
火災の発生を防止するために必要な措置が講じられていること。		○	・覆土、ガス抜き管を設置。 ・火災発生なし。
ねずみが生息し、はえその他の害虫が発生しないように必要な措置が講じられていること。		○	・覆土実施。 ・衛生害虫の異常発生等なし。
地下水等の水質検査の結果、次のいずれにも該当していないこと。ただし、水質の悪化が認められない場合においてはこの限りでない。 イ) 現に地下水質が基準に適合していないこと ロ) 検査結果の傾向に照らし、基準に適合しなくなるおそれがあること	地下水水質調査（年 4 回） 地下水汚染又はそのおそれを把握するため上流地下水、下流地下水において、鉛、砒素、BOD、ダイオキシン類等を確認	○	・上流側観測井戸 H17-19 の砒素*を除き地下水等検査項目基準に適合しており、上昇傾向も認められない。 ※土粒子等の浮遊物質が影響したものと推定
埋立地からガスの発生がほとんど認められない、又はガスの発生量の増加が 2 年以上にわたり認められないこと。	発生ガス等調査（月 1 回） 処分場内の発生ガスの状況を把握するため観測井戸における硫化水素濃度、メタン濃度等を確認	△	・一部の観測井戸でガスの発生量の変動が見られる。
埋立地の内部が周辺の地中温度に比して異常な高温になっていないこと。	地中温度調査（年 4 回） 廃棄物の分解による地中温度変化を把握するため、観測井戸において鉛直方向 1m 毎の温度を確認	○	・全体的に低下する傾向にある。 ・20℃を超える異常な高温ではない。
おおむね 50cm 以上の覆いにより開口部が閉鎖されていること。		○	・50cm 以上の覆土により開口部は閉鎖されている。
現に生活環境保全上の支障が生じていないこと。		○	・環境モニタリングの結果から生活環境保全上の支障は生じていない。
地滑り、沈下防止工、雨水等排出設備について、構造基準に適合していないと認められないこと。		○	・雨水排水溝を整備
浸透水の水質が次の要件を満たすこと。 ・地下水等検査項目：基準に適合 ・BOD：20mg/L 以下	浸透水水質調査（年 4 回、ダイオキシンは年 2 回） 浸透水の汚染状況を把握するため、処分場内浸透水の鉛、砒素、BOD、ダイオキシン類等を確認	×	・砒素、1,4-ジオキサン、BOD 等が基準超過 ・（ほう素、ふっ素、ダイオキシン類が環境基準を超過）

表 3-2 廃棄物処理法における地下水・浸透水基準及び地下水環境基準

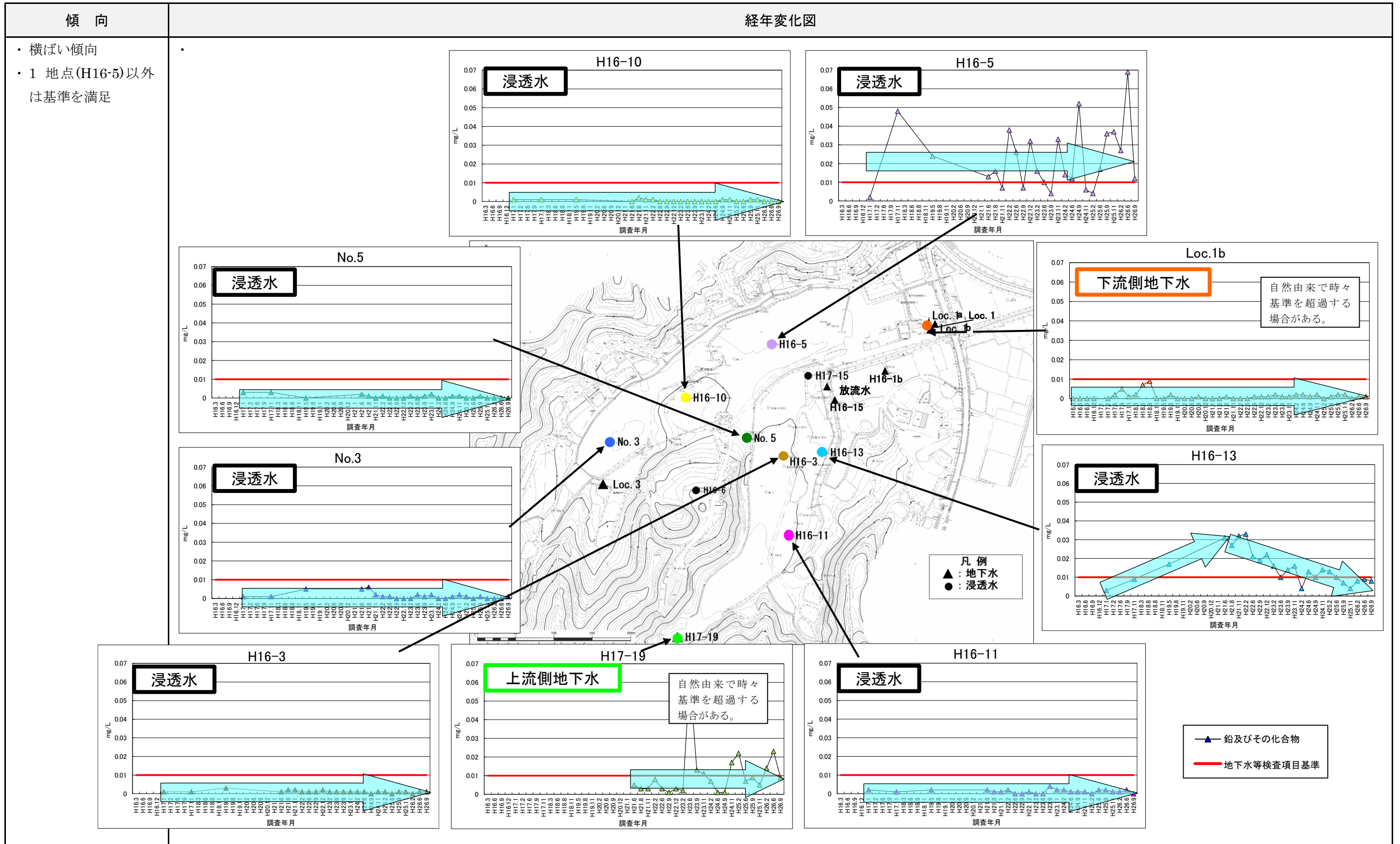
項目	廃棄物処理法基準	地下水環境基準
アルキル水銀	不検出	
総水銀	0.0005mg/L 以下	
カドミウム	0.01mg/L 以下	0.003mg/L 以下
鉛	0.01mg/L 以下	
六価クロム	0.05mg/L 以下	
砒素	0.01mg/L 以下	
全シアン	不検出	
PCB	不検出	
トリクロロエチレン	0.03mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	0.01mg/L 以下	
ジクロロメタン	0.02mg/L 以下	
四塩化炭素	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	0.1mg/L 以下	
1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/L 以下	
チウラム	0.006mg/L 以下	
シマジン	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	0.01mg/L 以下	
セレン	0.01mg/L 以下	
1,4-ジオキサン	0.05mg/L 以下	
塩化ビニルモノマー	0.002mg/L 以下	
BOD	20mg/L 以下	—
ほう素	—	1mg/L 以下
ふっ素	—	0.8mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	—	10mg/L 以下
ダイオキシン類	—	1pg-TEQ/L 以下

4. 廃棄物処理法による最終処分場の廃止基準項目の経年変化

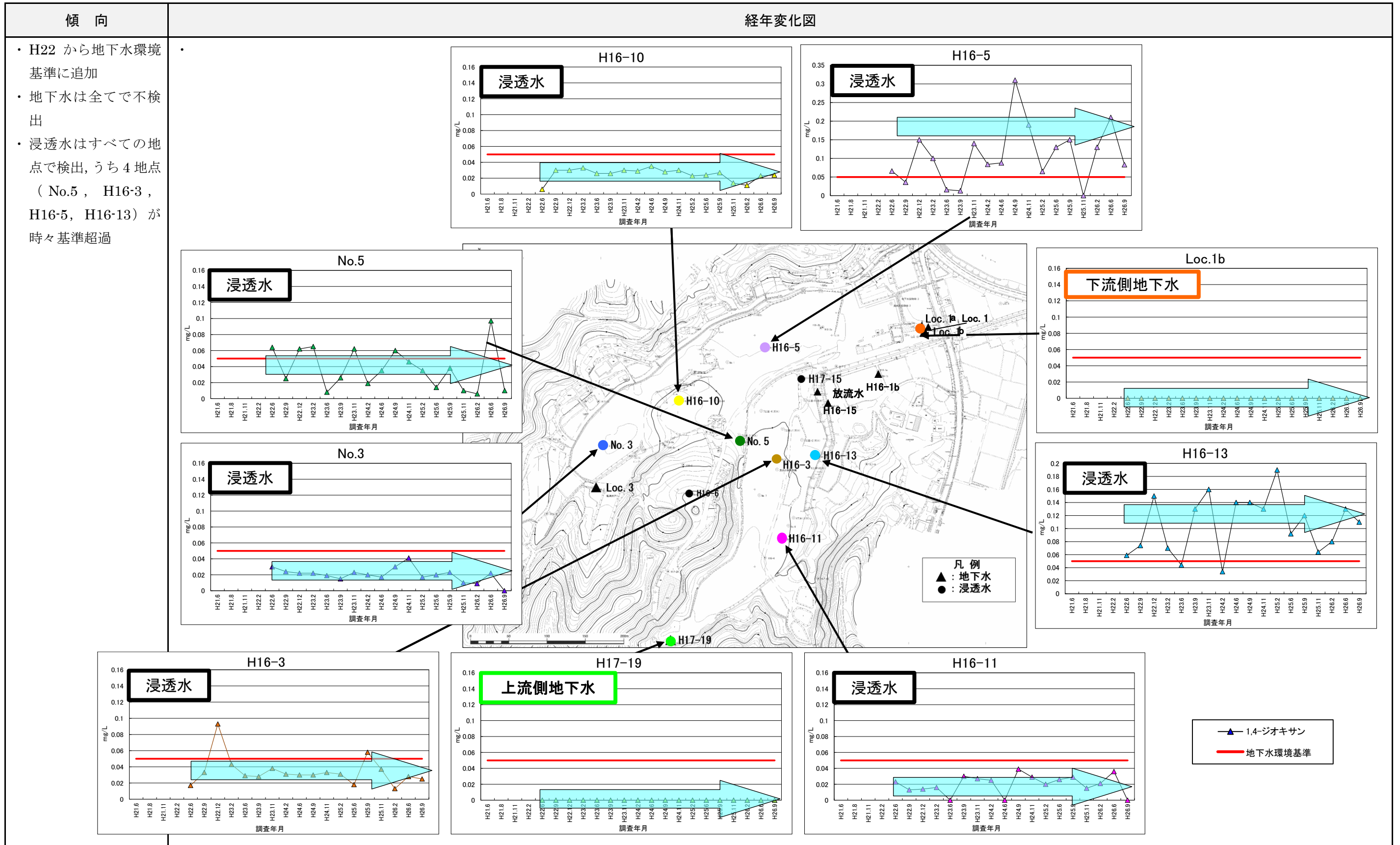
4.1 鉛



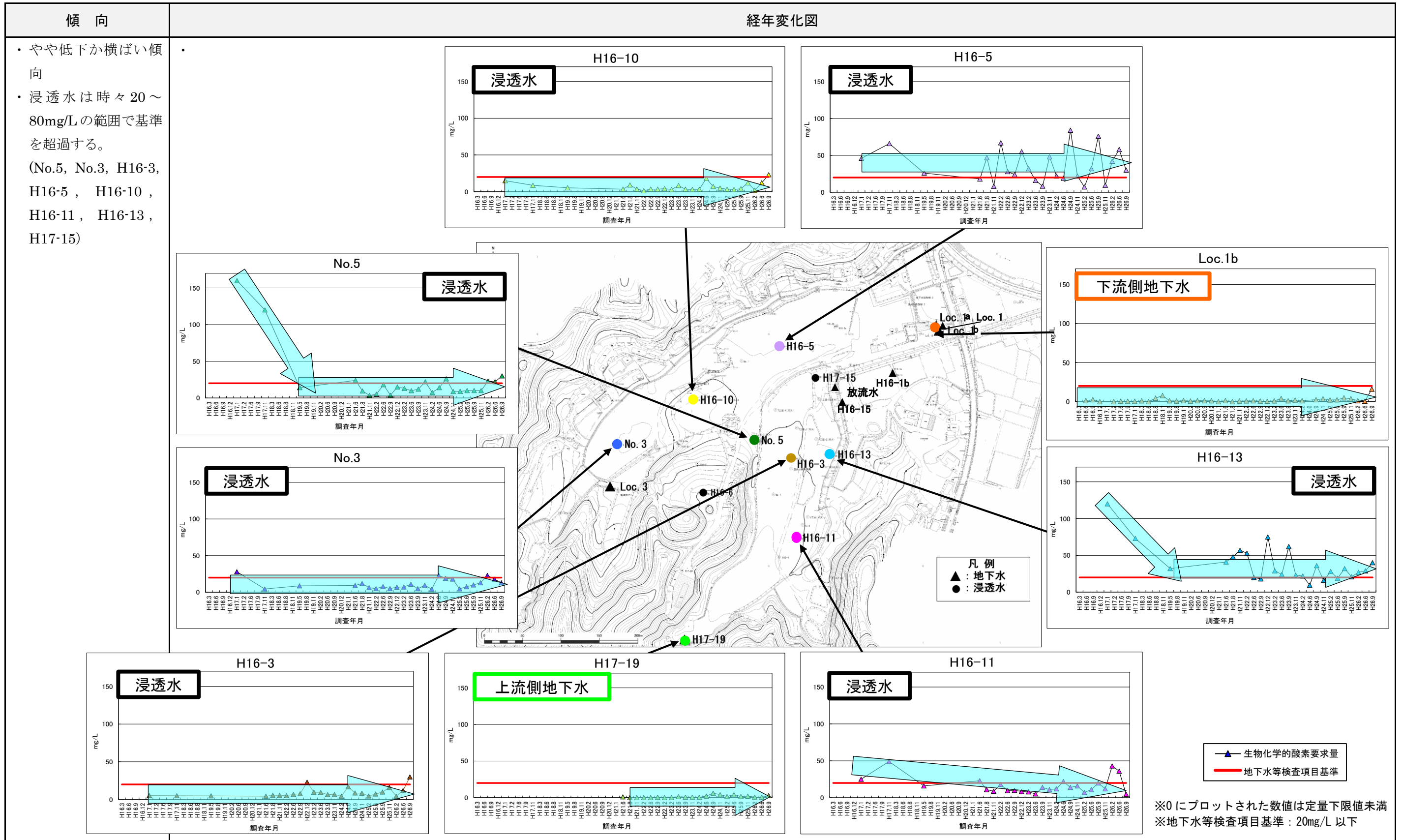
4.2 砒素



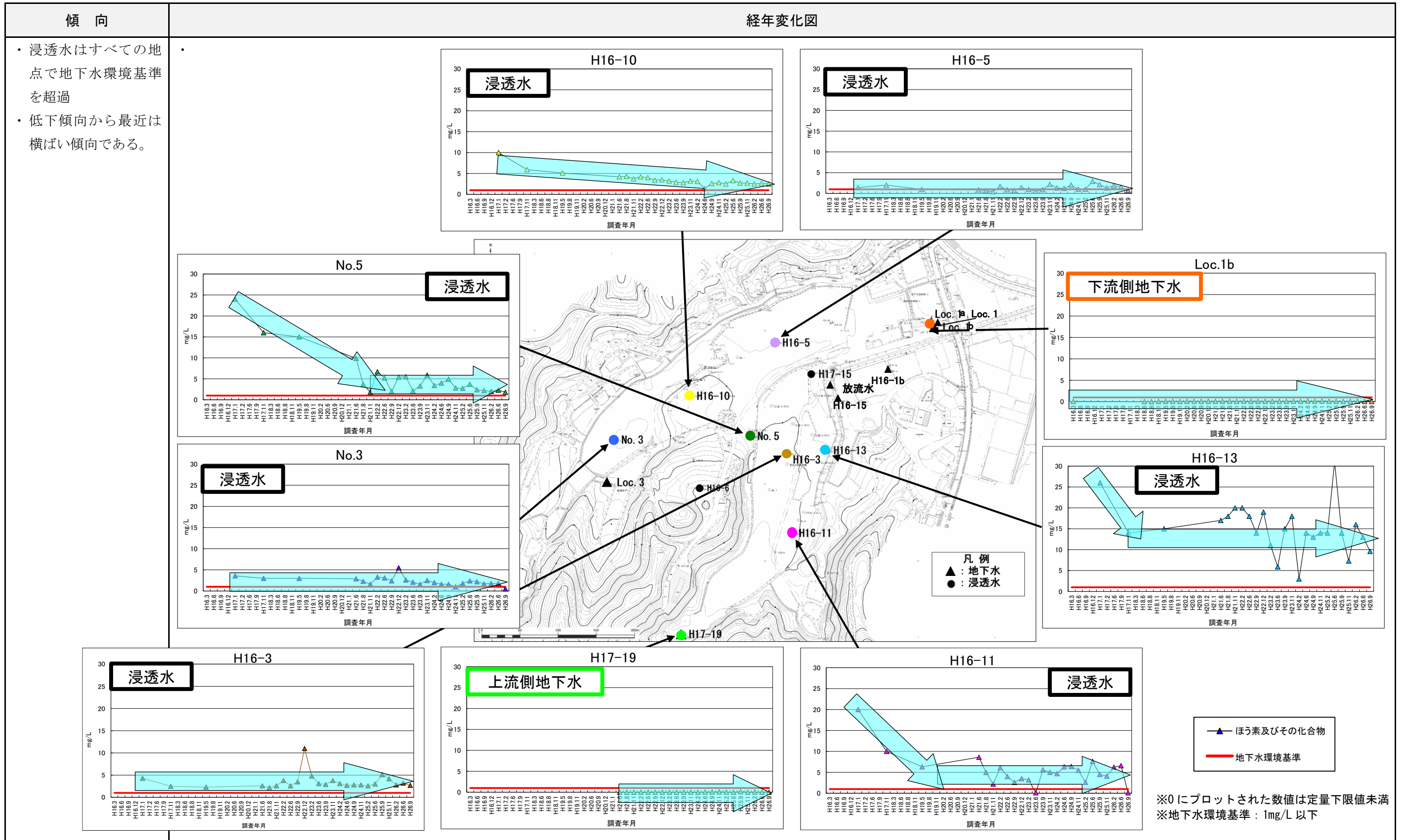
4.3 1,4-ジオキサン



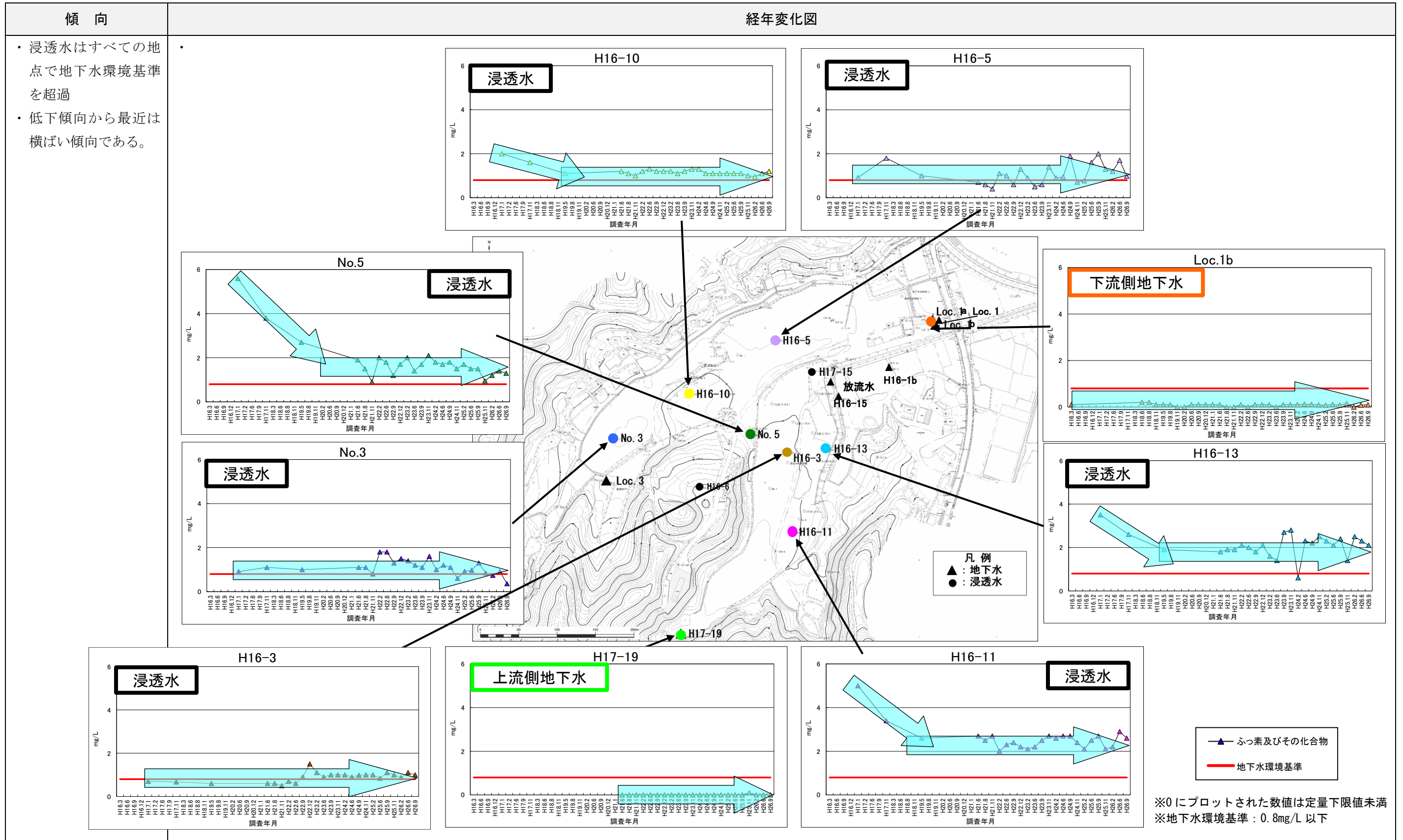
4.4 BOD



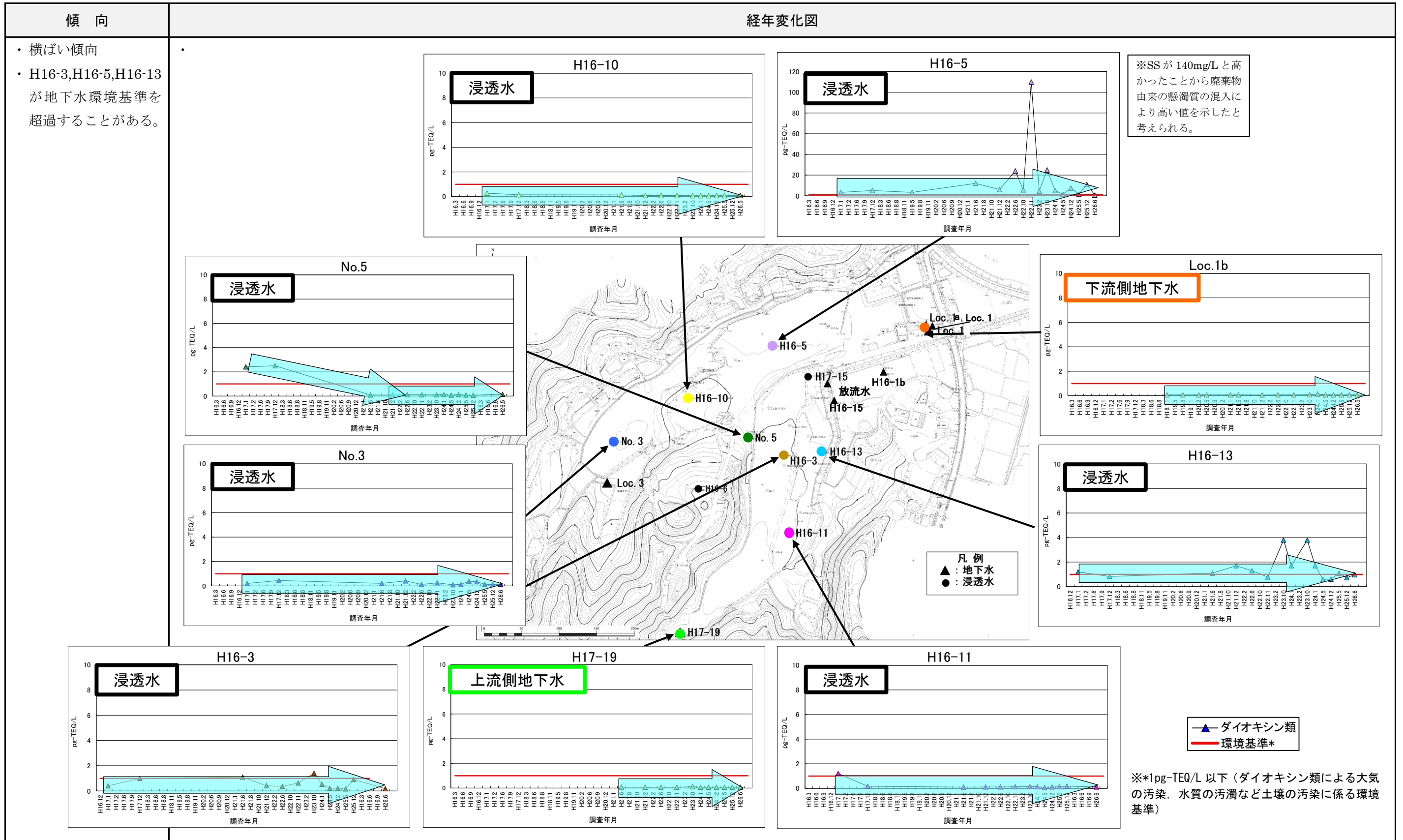
4.5 ほう素



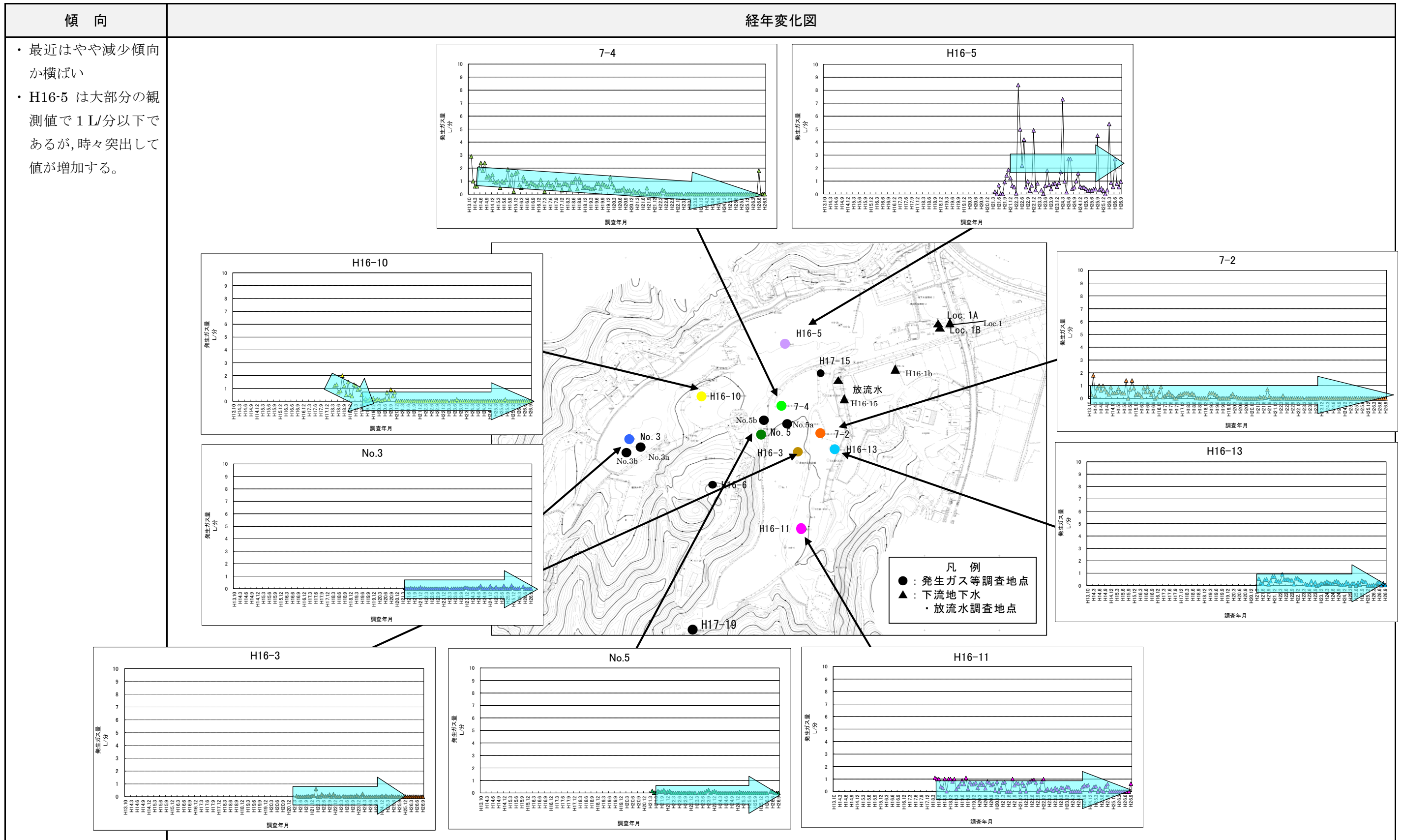
4.6 ふっ素



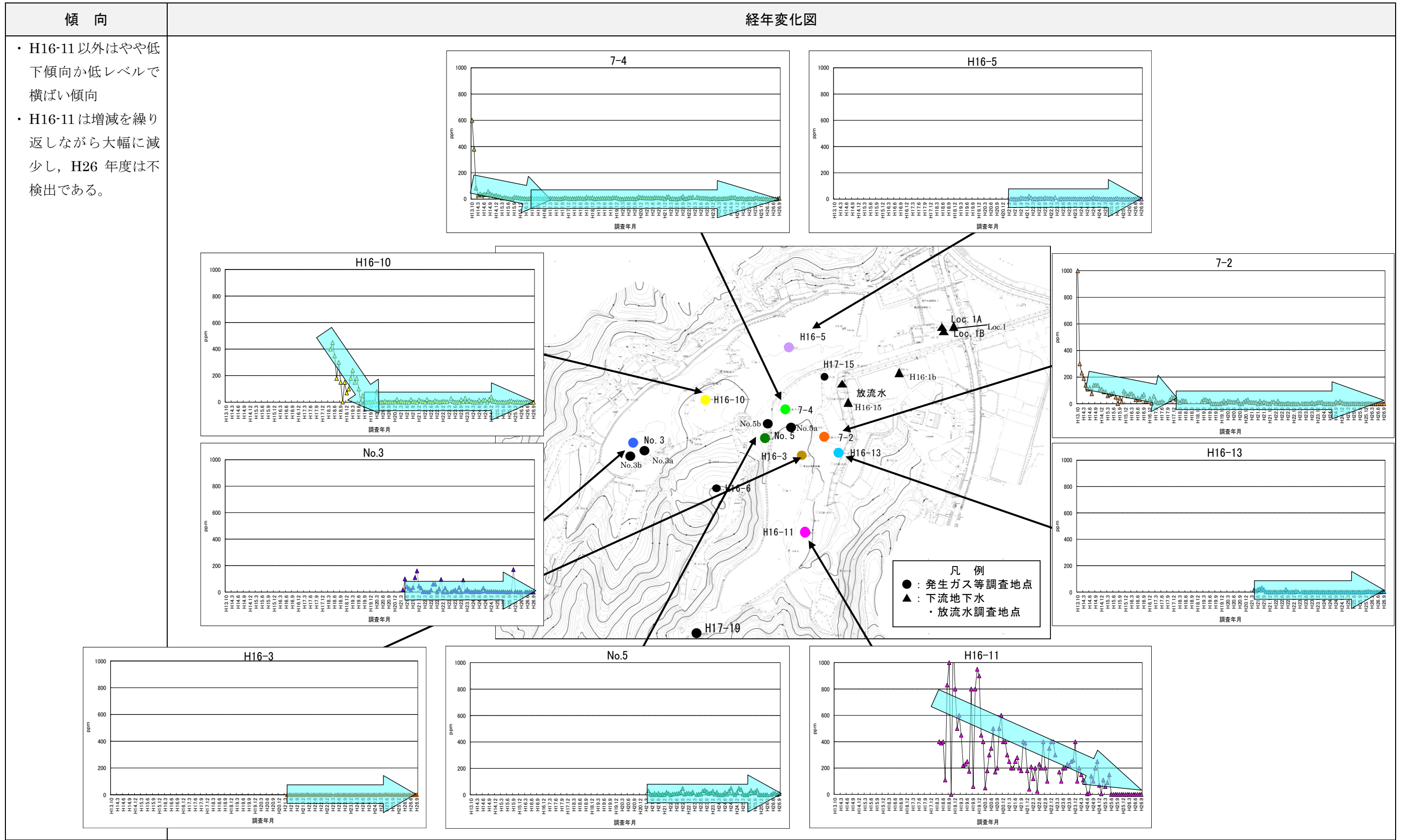
4.7 ダイオキシン類



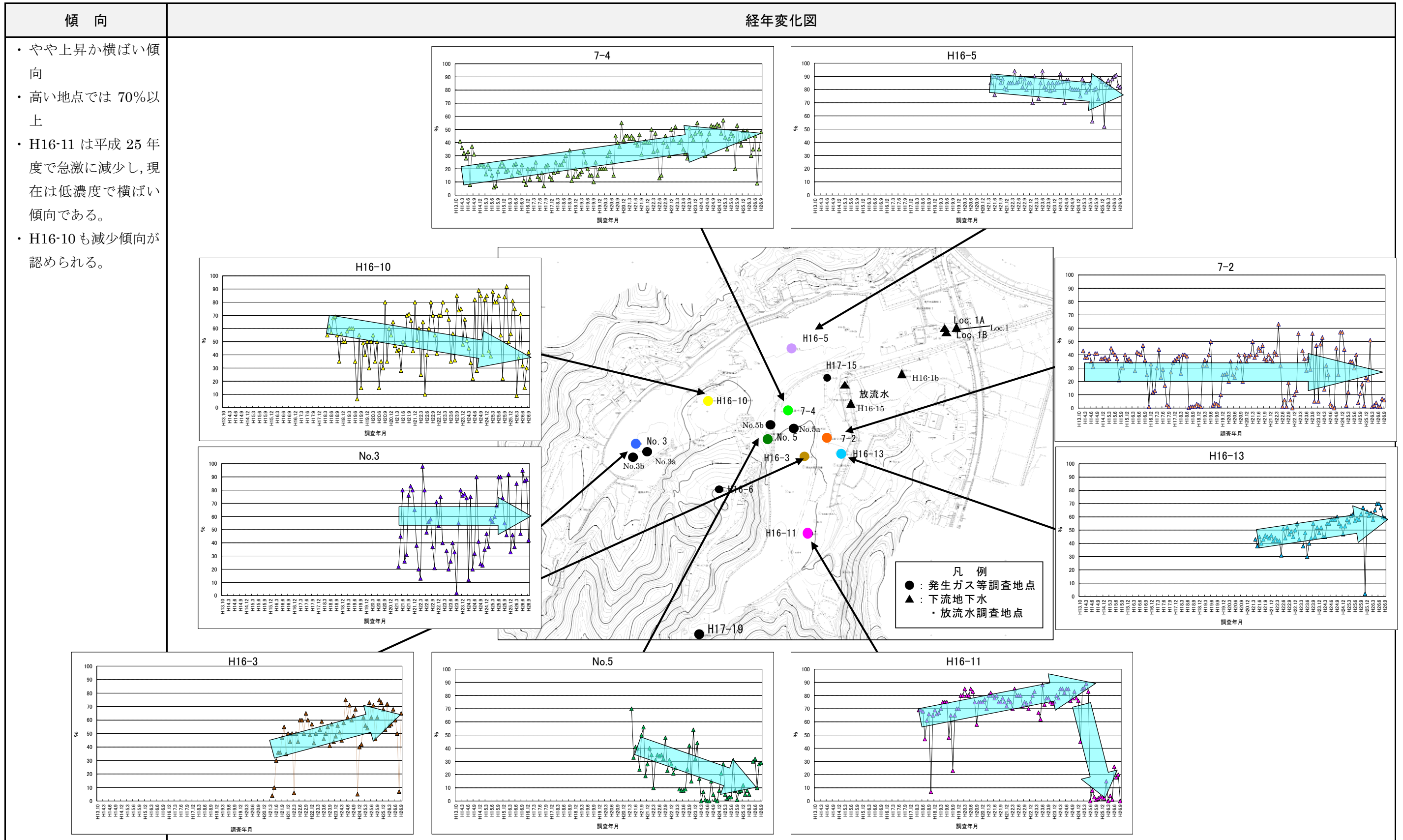
4.8 発生ガス量



4.9 硫化水素濃度



4.10 メタン濃度



4.11 地中温度

